

長崎市スポーツ推進計画



長崎市 平成27年5月

はじめに



長崎市におきましては、近年、若年層の人口減少が著しく、高齢化が進む中、健康増進に寄与し、誰でも気軽にできる運動や生涯スポーツができる環境づくりが求められています。

また、著しい少子化に伴う部活動の減少や子どもの体力低下などの問題を改善するため、児童・生徒の運動・スポーツ環境の充実が求められています。

さらに、地元選手の国際大会や全国大会などでの活躍による地域の活性化が期待されているところであります。

このような中、長崎市におきましては、スポーツ基本法の規定に基づき、運動やスポーツに関わる施策の総合的かつ計画的な推進を図るために、国が策定したスポーツ基本計画を参酌し、長崎市の実情に即した「長崎市スポーツ推進計画」を策定しました。

本計画では、市民の皆様が生涯にわたって運動やスポーツに関わり、運動やスポーツの楽しさや感動を分かち合うことによって、幸福で豊かな生活を実現することを目指し、また、スポーツ交流などを通じて国際観光文化都市である長崎市の魅力を全国及び世界に発信していくことを願っております。

最後に、この計画の策定にあたり、貴重なご意見・ご提言をいただきました市民の皆様をはじめ、長崎市スポーツ推進審議会の委員の皆様にご心よりお礼申し上げます。

平成27年5月

長崎市長 田上 富久

目 次

第1章 計画策定の背景等

1 計画策定の背景	1
2 計画の位置づけ	5
3 計画の期間	5

第2章 計画の基本理念及び基本方針

1 基本理念	6
2 基本方針	6

第3章 基本方針における目標及び今後の取組

1 子どもの運動・スポーツ機会の充実	7
(1) 幼児期からの子どもの体力向上方策の推進	7
(2) 学校における運動・スポーツ活動の充実	8
(3) 子どもを取り巻く社会の運動・スポーツ環境の充実	10
2 ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進	11
(1) ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進	11
(2) スポーツにおける安全の確保	12
3 住民が主体的に参画する地域の運動・スポーツ環境の整備	14
(1) コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの普及促進	14
(2) 地域スポーツ指導者の充実	15
(3) 地域スポーツ施設の利用促進	16
(4) 地域スポーツと企業・大学などとの連携	18

4	競技力の向上に向けた人材の養成、スポーツ環境の整備	19
	(1) ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の強化	19
	(2) スポーツ指導者及び審判員などの養成・研修やキャリア循環の形成	20
5	国際大会、全国大会などの招致・開催などを通じたスポーツ振興、地域活性化、 他都市との交流の推進	21
	(1) 国際大会、全国大会などの招致・開催など	21
	(2) スポーツに係る他都市との交流の推進	23
6	スポーツ界の好循環の創出	24
	(1) トップレベルのスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進	24
【資料1】		
	長崎市民の運動・スポーツの実態に関するアンケート集計結果	27
【資料2】		
	長崎市スポーツ推進計画（概要）	49
【資料3】		
	用語解説	51
【資料4】		
	長崎市スポーツ推進計画策定までの経過	55
【資料5】		
	長崎市スポーツ推進審議会委員	57

第1章 計画策定の背景等

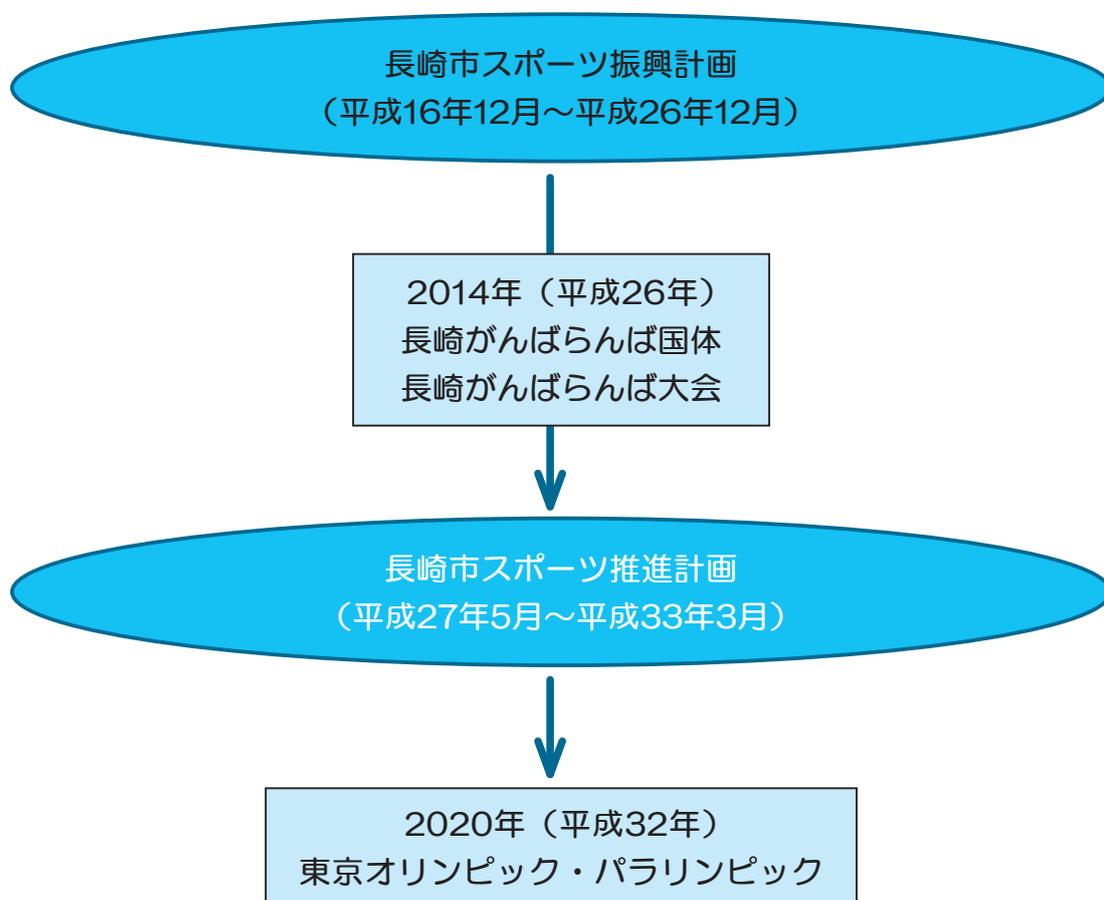
1 計画策定の背景

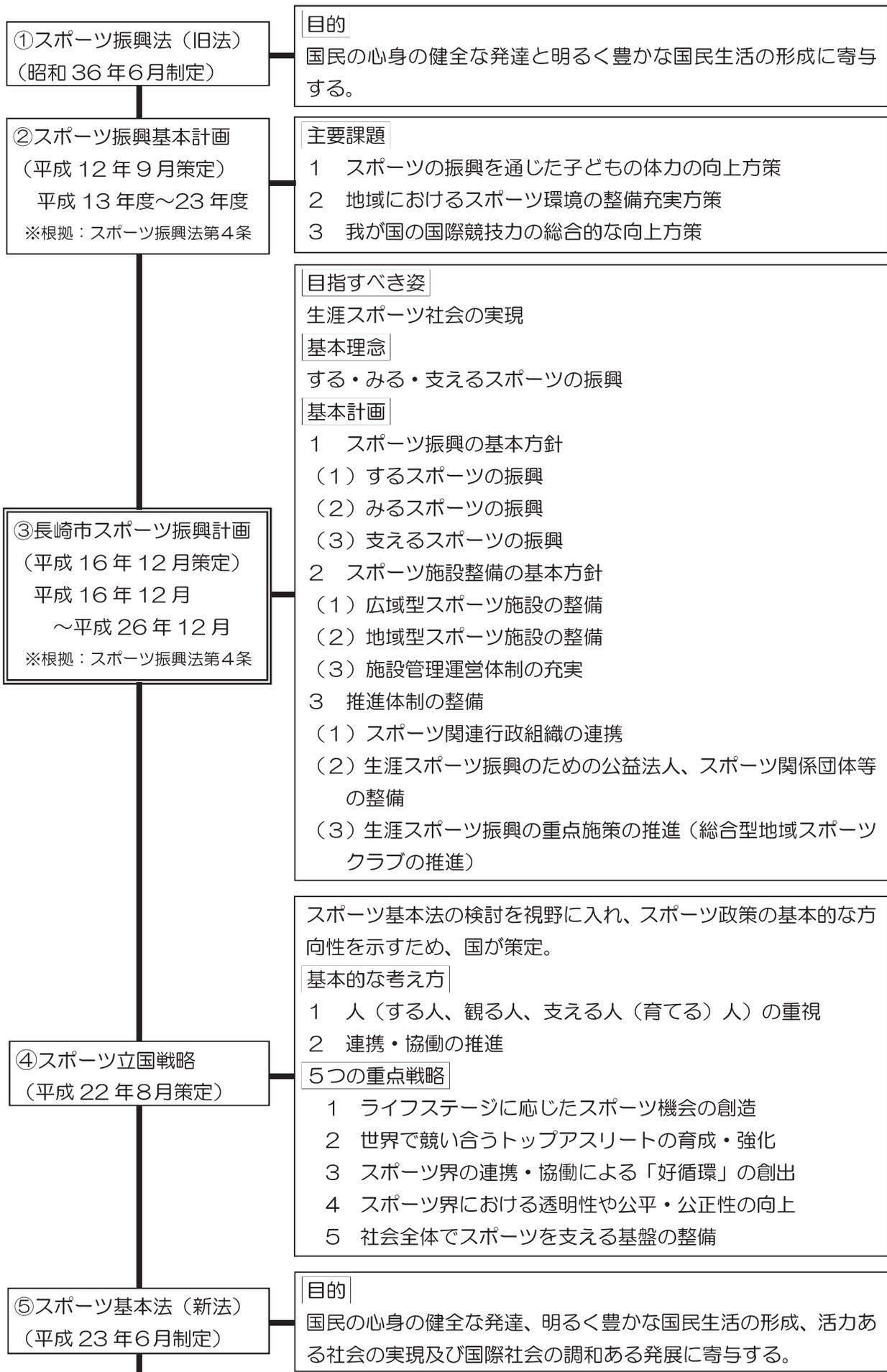
平成16年12月、長崎市は、スポーツ振興法に基づき、10年後の平成26年を目標年次とする「長崎市スポーツ振興計画」を策定しました。その後、プロスポーツや障害者スポーツの発展、少子高齢化や情報化の進展、地域社会の空洞化や人間関係の希薄化が進んだほか、グローバル化に伴い国際的な協力・交流が活発になる一方、国際競争も激化するなど、社会環境や価値観が急激に変化するとともに、運動やスポーツを取り巻く環境も大きく変化してきました。

このような中、国において、スポーツ界における新たな課題に対応するため、スポーツ立国戦略の策定、スポーツ基本法の制定、スポーツ基本計画の策定がなされたことから、長崎市においても、長崎市スポーツ振興計画の期間が満了することに伴い、スポーツ基本法に基づき、「長崎市スポーツ推進計画」を策定いたしました。

本計画は、平成26年1月に実施した「長崎市民の運動・スポーツの実態に関するアンケート」により、市民の運動やスポーツに対する意識や意見の実態把握に努め、長崎市の実情に即したものとしております。

また、本計画策定前の平成26年度に開催された長崎がんばらんば国体及び長崎がんばらんば大会の成果と課題を踏まえつつ、本計画期間の最終年度に開催される2020年東京オリンピック・パラリンピックに繋げることを目指しています。





⑥スポーツ基本計画
(平成 24 年 3 月策定)
平成 24 年度～33 年度
※根拠：スポーツ基本法第 9 条

今後 10 年間を見通したスポーツ推進の基本方針

「年齢や性別、障害などを問わず、広く人々が、関心、適性などに応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策課題とし、次の 7 項目ごとに政策目標を設定。

- 1 子どものスポーツの機会の充実
- 2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- 3 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
- 4 国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備
- 5 オリンピック・パラリンピックなどの国際競技大会の招致・開催などを通じた国際貢献・交流の推進
- 6 スポーツ界の透明性、公平・公正性の向上
- 7 スポーツ界の好循環の創出

※「スポーツ立国戦略」の内容で引き続き有効なものについては、スポーツ基本計画の策定にあたり必要に応じて取り入れられている。

長崎市第四次総合計画（平成 23 年 3 月策定） 平成 23～32 年度

前期基本計画（平成 23～27 年度）

基本施策 スポーツ・レクリエーションの振興を図ります

基本方針 (1) 市民のだれもが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツやレクリエーションに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するための環境整備に取り組みます。
(2) 競技スポーツの水準を高めるため、選手や指導者の育成・強化に努めます。

目指すべき姿

運動・スポーツを通じてすべての長崎市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を創出する

基本理念

する・みる・支えるスポーツの振興

基本方針

- 1 子どもの運動・スポーツ機会の充実
- 2 ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進
- 3 住民が主体的に参画する地域の運動・スポーツ環境の整備
- 4 競技力の向上に向けた人材の養成、スポーツ環境の整備
- 5 国際大会、全国大会などの招致・開催などを通じたスポーツ振興、地域活性化、他都市との交流の推進
- 6 スポーツ界の好循環の創出

⑦長崎市スポーツ推進計画
(平成 27 年 5 月策定)
平成 27～32 年度(約 6 年間)
※根拠：スポーツ基本法第 10 条

(関連計画)

- 第 2 次長崎市教育振興基本計画
- 第 2 次健康長崎市民 21
- 長崎市第 3 期障害者基本計画

- 長崎市子ども・子育て支援事業計画
- 長崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 長崎市観光戦略アクションプラン

①スポーツ振興法（旧法）

昭和36年6月、国が制定。同法では、スポーツを、「運動競技及び身体運動（キャンプ活動その他の野外活動を含む。）であって、心身の健全な発達を図るためにされるもの」と定義し、国民の心身の健全な発達と明るく豊かな国民生活の形成を目的としています。

②スポーツ振興基本計画

平成12年9月、スポーツ振興法の規定に基づき、スポーツの機会を提供する公的主体及び民間主体と、利用する住民や競技者が一体となった取組を積極的に展開し、一層のスポーツ振興を図ることにより、21世紀における明るく豊かで活力ある社会の実現を目指し、国が策定。計画期間を平成13年度から23年度としています。

③長崎市スポーツ振興計画

平成16年12月、スポーツ振興法第4条第3項に基づき、長崎市が策定。生涯スポーツの活動を、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「支えるスポーツ」に分類し、その活動の振興を図ることを基本理念とし、計画の目標年次を10年後の平成26年に設定しています。

④スポーツ立国戦略

平成22年8月、今後のスポーツ政策に関する基本方針を示すため国が策定。同戦略では、スポーツの意義や価値が広く国民に共有され、より多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち合い、互いに支え合う「新たなスポーツ文化」を確立することを目指し、人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視、連携・協働の推進の基本的な考え方のもと、実施すべき5つの重点戦略を掲げています。

⑤スポーツ基本法（新法）

平成23年6月、昭和36年に制定されたスポーツ振興法を50年ぶりに全部改正する形で国がスポーツ基本法を制定しました。同法では、スポーツ振興法の定める施策を充実させつつ、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であるとの考えに立った新しい時代におけるスポーツの基本理念を提示し、国、地方公共団体をはじめとする関係者の連携と協働によって、その基本理念の実現を図ることを具体的に規定しています。

また、旧法（スポーツ振興法）に基づき策定した地方スポーツ振興計画については、新法第10条で規定する地方スポーツ推進計画とみなすことが同法附則に規定されています。

⑥スポーツ基本計画

平成24年3月、国と地方公共団体が果たすべき役割に留意して、スポーツ基本法第9条に基づき、国が策定。同計画では、スポーツ基本法に示された理念の実現に向け、平成24年度から10年間のスポーツ推進の基本方針と5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策を示しています。

⑦長崎市スポーツ推進計画

長崎市スポーツ振興計画の計画期間が満了することに伴い、スポーツ基本法第10条に基づき、スポーツ基本計画を参酌し、平成27年5月から約6年後の平成32年度末を目標年次とする新計画を策定しました。

2 計画の位置づけ

「長崎市スポーツ推進計画」は、スポーツ基本法第10条第1項の規定に基づき、国が策定したスポーツ基本計画を参酌して策定したもので、また、「長崎市第四次総合計画」の基本方針を踏まえつつ、運動やスポーツに関連の深い分野の各計画との整合性を図っています。

※スポーツ基本法（抜粋）

第10条 都道府県及び市(特別区を含む。以下同じ。)町村の教育委員会(地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第24条の2第1項の条例の定めるところによりその長がスポーツに関する事務(学校における体育に関する事務を除く。)を管理し、及び執行することとされた地方公共団体にあつては、その長)は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画(以下「地方スポーツ推進計画」という。)を定めるよう努めるものとする。

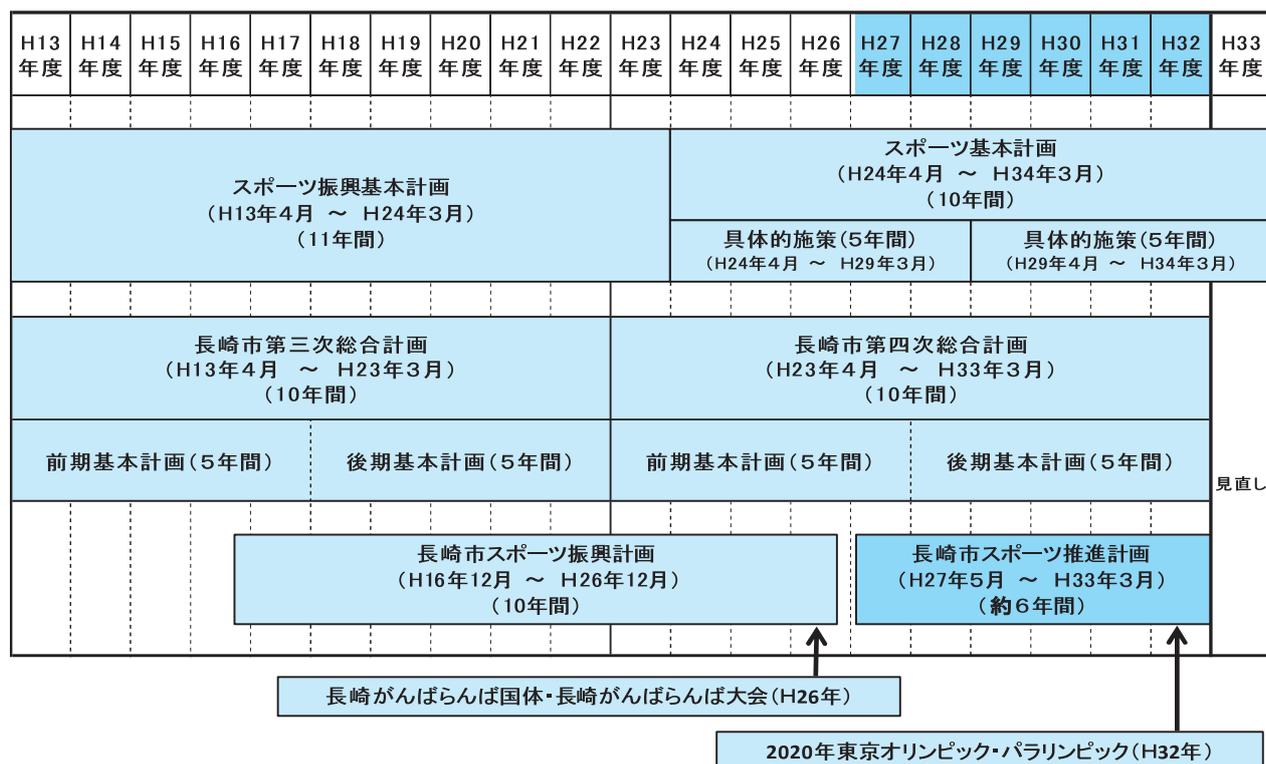
※長崎市第四次総合計画における基本方針

- (1) 市民のだれもが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツやレクリエーションに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するための環境整備に取り組みます。
- (2) 競技スポーツの水準を高めるため、選手や指導者の育成・強化に努めます。

3 計画の期間

「長崎市スポーツ推進計画」の計画期間については、「長崎市第四次総合計画」の終期（平成32年度末）に合わせ概ね6年間としています。

「長崎市スポーツ推進計画」の計画期間



第2章 計画の基本理念及び基本方針

本計画は、運動・スポーツを通じてすべての長崎市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を創出することを目指すため、以下の基本理念に基づき、基本方針を設定しています。

1 基本理念

する・みる・支えるスポーツの振興

2 基本方針

長崎市第四次総合計画の基本方針を踏まえ、また、国のスポーツ基本計画の基本方針を参酌して、本計画の今後概ね6年間の基本方針を次のとおり設定します。

1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育むなど人格の形成に積極的な影響を及ぼし、次代を担う人材を育成するため、子どもの運動・スポーツ機会を充実します。

2 ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進

心身の健康の保持・増進を図り、健康で活力に満ちた長寿社会を実現するため、ライフステージに応じた運動・スポーツ活動を推進します。

3 住民が主体的に参画する地域の運動・スポーツ環境の整備

人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成し、人間関係の希薄化などの問題を抱える地域社会の再生に貢献するため、住民が主体的に参画する地域の運動・スポーツ環境を整備します。

4 競技力の向上に向けた人材の養成、スポーツ環境の整備

国際大会や国民体育大会などの全国大会における長崎市出身選手の活躍が、市民に誇りと喜び、夢と感動を与え、市民のスポーツへの関心を高め、長崎市の社会に活力を生み出し、市民経済の発展に広く寄与するため、競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備を行います。

5 国際大会、全国大会などの招致・開催などを通じたスポーツ振興、地域活性化、他都市との交流の推進

スポーツ振興、地域活性化、他都市との交流を推進するため、国際大会、全国大会などの招致・開催、姉妹都市とのスポーツ交流などを通じた国際貢献・交流を推進します。

6 スポーツ界の好循環の創出

地域におけるスポーツを推進する中から優れたスポーツ選手が生まれ、そのスポーツ選手が地域におけるスポーツの推進に寄与するというスポーツ界の好循環を創出します。

第3章 基本方針における目標及び今後の取組

1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

【目標】

子どもの運動・スポーツ機会の充実を目指し、学校や地域などにおいて、すべての子どもが運動やスポーツを楽しむことができる環境の整備を図ります。

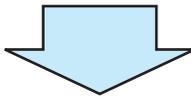
そうした取組の結果として、今後10年以内に子どもの体力が、全国的に体力水準が高かった昭和60年頃の水準を上回ることができるよう、今後概ね6年間、体力の向上傾向が維持され、確実なものとなることを目標とします。

(1) 幼児期からの子どもの体力向上方策の推進

	現状と課題	今後の取組
①	<p>子どもの体力は、文部科学省が実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査(*)」によると、平成16年から約10年間にわたり、概ね低下傾向に歯止めがかかってきていますが、全国的に体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると、基礎的運動能力は依然として低い状況にあります。</p> <p>また、近年、子どもの肥満やロコモ予備軍(*)が増加しています。</p>	<p>「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」などに基づいたすべての子どもの体力向上に向けた取組においてPDCA(*)サイクルの確立を促進します。</p> <p>子どもの体力の重要性に関し、保護者に対する理解促進が有効であることから、保護者が参加する取組や子どもと保護者が一緒にできる運動やスポーツなどを推進し、そのような取組や運動などについて、スポーツ推進委員(*)などを活用し、周知を図ります。</p>
②	<p>近年、積極的に運動やスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められます。</p>	<p>積極的に運動やスポーツを行わない子どもが多くいることから、その子ども達を対象にして、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わうことができるようにすることに重点を置きます。</p> <p>また、小中学校においては、児童・生徒が運動部で活動することを推進します。</p>
③	<p>積極的に運動やスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化については、小学校の早い段階からその傾向が認められるとともに、小学校低学年においては、明確な体力の向上傾向は認められないことなどから、幼児期からの積極的な取組が重要となっています。</p>	<p>幼児期における運動指針(*)を踏まえ、地域の実情に応じて、保育所、幼稚園、総合型地域スポーツクラブなどで、幼児期から体を動かした遊びに取り組む習慣や望ましい生活習慣を身に付けさせるための取組を行います。また、その取組が、小学校での運動やスポーツにうまく連携できるよう努めます。</p>
④	<p>子ども達に運動やスポーツを体験させる機会が少なくなってきたことが、子ども達の体力低下の原因の一つと考えられます。</p>	<p>青少年育成協議会(*)や子ども会、子どもを守るネットワーク及び放課後児童クラブの活動の一つとして運動やスポーツを取り入れているところがあり、</p>

	<p>子ども達の健全育成及び体力向上を図るため、スポーツ推進委員などの地域の指導者の紹介を行うことなどにより、このような活動を支援していきます。</p> <p>トップアスリートによる講演会、実技指導を行うことにより、子ども達にスポーツに対する意欲を向上させる取組を行います。</p>
--	---

幼児期からの子どもの体力向上方策の推進



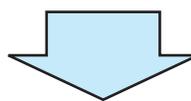
子どもの体力向上
 運動嫌いな子どもの減少
 競技力の向上
 運動・スポーツへの保護者の関心増大

(2) 学校における運動・スポーツ活動の充実

	現状と課題	今後の取組
①	小学校においては、教員の高齢化も進む中で、ほとんどの教員が全教科を指導しており、教員が体育の授業に不安を抱えたり、専門性を重視した指導が十分に実施されていない状況もみられます。	研修会の開催や実技指導資料などの作成と「あじさいスタンダード体力づくり編(*)」の活用により、教員の指導力向上を図るとともに、各学校において、児童・生徒の体力向上に繋がる運動や遊びについての取組を行います。
②	中学校においては、武道などが必修化されたことに伴い、安全で円滑な指導を充実させるための取組が求められています。	中学校における武道などの必修化に伴い、安全かつ効果的な指導のために、地域の指導者などの有効活用などによる指導体制の充実や、施設などの整備を図ります。
③	運動部活動の指導体制の充実を図るためには、専科教員や専門性を有する地域のスポーツ指導者の配置を促進することが有効ですが、全体としてはその活用の実態は十分とは言えない状況にあります。	運動部活動の充実のため、学校間で連携を取り、部活動の統合を行うなど、児童生徒のスポーツに関する多様なニーズに応える柔軟な運営などを行う取組を一層促進します。
④	少子化に伴う運動部活動の所属児童・生徒数の減少などにより、チーム競技などにおいて特に活動に支障をきたしています。	研修などにより運動部活動に関する指導力や経営、調整能力の向上を図るとともに、学校と地域のスポーツ指導者との連携を支援し、一層理解の促進を図ります。

⑤	顧問教員の負担を軽減するためのスポーツ指導者の確保について課題があり、その形態や運営について一層の工夫が求められています。	運動部活動の指導に当たる教員に対しての研修会や講習会を計画的に実施し、意欲を高める取組を行います。
		大学や競技団体などと連携し、学校体育や運動部活動などへの指導者の派遣に努めます。
⑥	体育・保健体育の授業や運動部活動など、学校の体育に関する活動においては、安全面でのさらなる配慮・工夫が求められています。	学校の体育に関する活動を安心して行うことができるよう、スポーツ医・科学を活用したスポーツ事故の防止及びスポーツ障害の予防・早期発見に関する知識の普及啓発や、学校とスポーツドクター（*）など地域の医療機関の専門家などとの連携を促進します。
		安全性の向上や事故防止などについて、教員や運動部活動指導者などに対する研修の充実を図ります。
		学校で保有しているスポーツ施設や用具の定期的な点検、適切な保管管理に関する啓発を図ります。
⑦	スポーツ基本法では、学校における障害のある児童生徒の体育に関する活動について、障害の種類や程度に応じた配慮が求められています。	学校においては、「個別の教育支援計画」を作成するなど、障害のある児童生徒の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行っています。
		「交流及び共同学習」を行う際は、障害のある児童生徒の実態に応じた配慮を行いつつ、障害の有無にかかわらず、ともに体を動かす喜びを味わわせるとともに交流を深める取組などを行います。
⑧	長崎市立の学校体育施設の耐震化率については、平成25年度末で、体育館が100%、武道場が95.5%となっています。	長崎市立の学校体育施設の耐震化については、平成27年度末までに耐震化率100%を目指します。

学校における運動・スポーツ活動の充実

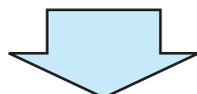


教員及び指導者の指導力向上
 学校体育、運動部活動などの運動・スポーツ環境の充実
 児童・生徒の運動機会の増加

(3) 子どもを取り巻く社会の運動・スポーツ環境の充実

	現状と課題	今後の取組
アンケート 問19 (資料1)	スポーツ少年団(*)を「知っている」と答えた人は37.1%とスポーツ少年団の認知度は低い状況にあります。	<p>広報紙やホームページなどでスポーツ少年団の活動内容などについて周知を図ります。</p> <p>青少年育成協議会や自治会に対し、スポーツ少年団の活動内容などについて周知を図ります。</p>
①	子ども自身が体を動かすことの楽しさに触れ、進んで体を動かすようになるためには、子どもたちの生活の場である地域におけるスポーツ活動を充実していくことが重要です。	<p>学校、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、学校体育団体、競技団体、野外活動関係団体、スポーツ・レクリエーション活動(*)関係団体、障害者スポーツ団体などが連携して、指導体制を充実させ、スポーツ施設を有効利用することなどにより、子どもの多様なスポーツ活動が効率的・効果的に行われるための取組を推進します。</p>
②	総合型地域スポーツクラブでは、スポーツ指導者の確保が十分にはできていないとともに、スポーツ指導者の派遣など学校の体育に関する活動との連携も不十分な状況にあります。	<p>子どものスポーツへの参加機会の選択肢を充実させるための取組や子ども達の所属する団体がスポーツ施設を利用する際の優遇措置などについて検討します。</p>
③	子ども会の減少や地域行事に参加する子ども達が少なくなってきたことから、子ども達にスポーツを体験させる機会が少なくなってきました。	<p>子ども達の地域行事への参加が減っていく中で、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などと連携した取組ができないか検討します。</p>

子どもを取り巻く社会の運動・スポーツ環境の充実



運動・スポーツへの子どもの参加機会の増加
競技力の向上
児童・生徒の体力向上

2 ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進

【目標】

ライフステージに応じた運動やスポーツ活動を推進するため、市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全に運動やスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の整備を推進します。

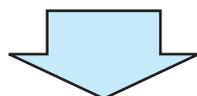
そうした取組を通して、できるかぎり早期に、成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率が3人に2人（65%程度）、週3回以上の運動・スポーツ実施率が3人に1人（30%程度）となることを目標とします。また、健康状態などにより運動・スポーツを実施することが困難な人の存在にも留意しつつ、成人の運動・スポーツ未実施者（1年間に一度も運動やスポーツをしない者）の数がゼロに近づくことを目標とします。

週1回以上の運動・スポーツ実施率目標値	42.1%(平成26年1月現在)→65%(平成32年度末)
週3回以上の運動・スポーツ実施率目標値	23.3%(平成26年1月現在)→30%(平成32年度末)

(1) ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進

	現状と課題	今後の取組
アンケート 問6 (資料1)	「健康ではない」と答えた人は11.6%であり、平成15年のアンケート時(6.4%)と比べて増加しています。	市民が運動への関心を高め、継続して実践に繋がるよう各種運動教室の開催や公園に設置している健康遊具の活用などの健康情報を発信します。
アンケート 問9-1 (資料1)	週1回以上の運動・スポーツ実施率が42.1%と、平成15年のアンケート時(21.1%)と比べて上昇していますが、32年度末における目標値(65%程度)には大きく及びません。	運動・スポーツの実施率向上のため、広報紙やホームページなどで地域スポーツに関する情報を発信します。 市民会館で春と秋に行っている体力づくり教室、バドミントン教室、親子教室やヨガ教室などの教室の情報を発信します。
アンケート 問10 (資料1)	運動やスポーツを行わない理由は、「高齢である」(11.5%)、「健康や体力に自信がない」(9.4%)、「病気、けが、体調が悪い」(8.5%)、「運動やスポーツが好きでない」(6.4%)などとなっています。	運動・スポーツ未実施者や運動やスポーツが苦手な人などに対する運動・スポーツへの参加のきっかけづくりへ取り組みます。
アンケート 問31 (資料1)	1年間に何らかの運動やスポーツに関わるボランティア活動を行ったことがある人が5.5%と少なく、平成15年のアンケート時(10.3%)よりも減少しています。	スポーツボランティアが行えるスポーツプログラムやスポーツイベントなど様々な機会を市民に提供します。
アンケート 問32 (資料1)	行ってみたいボランティア活動は、「大会やイベントなどにおいて、大会開催に伴う運営の手伝い」(19.7%)、「プロスポーツの試合運営の手伝い」(8.0%)、「障害者のスポーツ活動に対する支援」(6.9%)などとなっています。	長崎がんばらんば国体(第69回国民体育大会)及び長崎がんばらんば大会(第14回全国障害者スポーツ大会)において、ボランティアを経験した市民に対し、今後も定期的にスポーツボランティアの機会を提供するよう努めます。

ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進

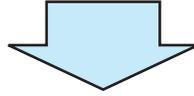


市民の健康増進
市民の運動・スポーツ実施の機会増加

(2) スポーツにおける安全の確保

	現状と課題	今後の取組
①	スポーツ事故その他スポーツによって生じる外傷、障害などの防止及びこれらの軽減を図ることは、安全な環境のもとで日常的にスポーツに親しむために不可欠です。	バリアフリー化や耐震化などの公共スポーツ施設の充実及び安全確保に努めます。
		スポーツ施設の利用者に対し、施設の安全な利用のための指導を行います。
		スポーツ用具の定期的な点検及び適切な保管管理を行います。
		スポーツ事故、外傷、障害などに関わる最新のスポーツ医・科学的知見を学習するための研修を実施します。
②	スポーツ活動中の事故・外傷・障害などの防止や軽減を図るためには、スポーツ用具の安全性を確保することや、実技指導にあたるスポーツ指導者が、必要な知識・技術を習得して指導に活用することが重要です。	スポーツドクターなど地域の医療機関の専門家などとの連携を促進するなど、スポーツ事故、外傷、障害などを未然に防止するための取組を推進します。
		スポーツ保険の普及を促進します。
		スポーツ事故、外傷、障害などに関する最新のスポーツ医・科学的知見を学習するための研修を実施します。
③	施設利用者で、AED（*）の設置の有無や設置場所を知っている人が少ない状況にあります。	AEDの設置場所などを分かりやすく表示して、施設利用者に周知します。
		大規模な施設においては、AEDをすぐに利用できるような複数台の設置を検討します。
		AEDマップ（*）への掲載と応急手当の普及啓発のため、各施設に対し、長崎市救急サポートステーション（*）への登録を推奨します。

スポーツにおける安全の確保



スポーツ事故の防止・軽減

3 住民が主体的に参画する地域の運動・スポーツ環境の整備

【目標】

住民が主体的に参画する地域の運動・スポーツ環境を整備するため、総合型地域スポーツクラブ（*）の普及、スポーツ指導者の充実やスポーツ施設の利用促進などを図ります。

（１）コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの普及促進

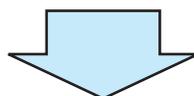
	現状と課題	今後の取組
アンケート 問13 (資料1)	総合型地域スポーツクラブを知らない人が84.0%と多数を占めており、平成15年のアンケート時（74.3%）よりも増加しています。	広報紙やホームページなどにより、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ団体などの活動内容等を周知します。 年齢に関係なく、気軽に参加できる総合型地域スポーツクラブやスポーツ団体などの普及を、各地域のスポーツ推進委員、指導者又は競技団体などと連携し、促進します。
アンケート 問14 (資料1)	スポーツ団体、運動やスポーツに関する同好会、サークルなどへ加入している人は（14.0%）と少なく、平成15年のアンケート時（19.1%）よりも減少しています。	
アンケート 問17 (資料1)	スポーツ団体などに加入していない理由は、「高齢である」（7.3%）が最も多く、次に「運動やスポーツに関する情報が不足している」（7.1%）、「健康や体力に自信がない」（6.7%）などとなっています。	

【長崎市内の総合型地域スポーツクラブ】

平成27年4月1日現在

名 称	活動内容など	拠 点
長崎市西部総合スポーツクラブ	バドミントン教室、バレーボール教室、ビリヤード教室、グラウンド・ゴルフ（*）、ソフトボール、あそび塾	西城山小学校（体育館、運動場）、地区公民館
長崎ラグビースポーツクラブ	ミニ・ジュニアラグビー、タグラグビー、ウォーキング、ターゲットバードゴルフ（*）	市営ラグビー・サッカー場他
西浦上スポーツクラブ	グラウンド・ゴルフ、卓球、ペタンク（*）、登山、ウォーキング	西浦上小学校
東長崎総合型スポーツクラブ	バドミントン、ゲートボール、バレーボール、ジュニアスポーツ教室、インディアカ（*）、ランニング、ウォーキング	長崎総合科学大学附属高校体育館、東公園コミュニティ体育館、矢上小学校、平間町公園
一般社団法人長崎県スポーツアソシエイトクラブ	スクエアステップ（*）、ランニング、ウォーキング	銭座小学校体育館、銭座地区コミュニティセンター

コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの普及促進



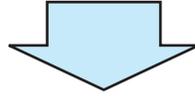
総合型地域スポーツクラブの普及
生涯スポーツの充実

(2) 地域スポーツ指導者の充実

	現状と課題	今後の取組
アンケート 問18 (資料1)	スポーツ推進委員を知らないと答えた人が78.5%と多く、また、知っていて活用したことがある人は、1.6%と少ない状況にあります。	広報紙やインターネットで、スポーツ推進委員の活動内容を周知し、併せてスポーツ推進委員の募集を行います。
アンケート 問33 (資料1)	指導を行ってみたいと答えた人は11.2%と低く、平成15年のアンケート時(23.3%)と比べて減少しています。	自治会に対し、スポーツ推進委員の活動内容を周知し、併せてスポーツ推進委員の募集を行います。
①	スポーツ推進委員については、長崎市では中学校区単位で160人を定数としています。平成27年4月1日現在で、118人(男83人、女35人)と定数に達しておらず、また、女性の割合が少ない状況にあります。	
②	資格を有するスポーツ指導者を地域のスポーツ活動で有効に活用する活動場所や機会が少ないことに加え、マッチングも必ずしも十分に機能していません。	子ども達の体力向上に向けて、総合型地域スポーツクラブと連携し、地域のスポーツ指導者を積極的に活用する方策を検討します。 有資格者などの質の高いスポーツ指導者を公共スポーツ施設で活用します。 大学や競技団体と連携し、指導者に対する研修の充実を図るなど、地域のニーズに即した人材確保、活用方策を検討します。
③	総合型地域スポーツクラブの創設や運営への参画、スポーツ活動全般にわたるコーディネーターなどの取組は十分でない状況にあります。	地域スポーツにおけるコーディネーター(*)などとして活躍できる人材の育成を促進します。 大学、スポーツ団体及び企業などと連携して、スポーツツーリズム(*)に関する教育機会を提供します。

各地区のスポーツ推進委員が、地域に根ざした運動や体カテストなどの活動を行えるよう支援します。

地域スポーツ指導者の充実

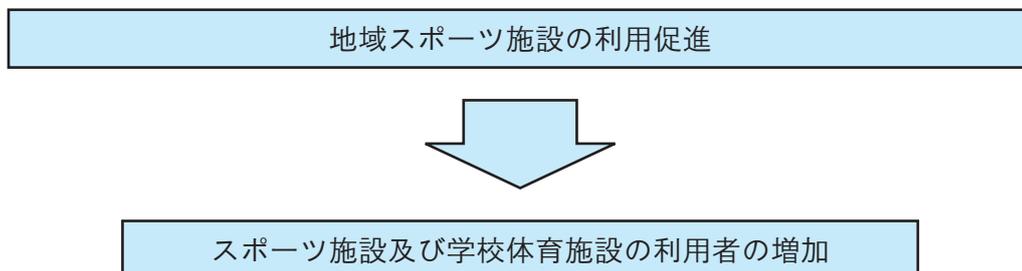


スポーツ指導者の活用機会の増加

(3) 地域スポーツ施設の利用促進

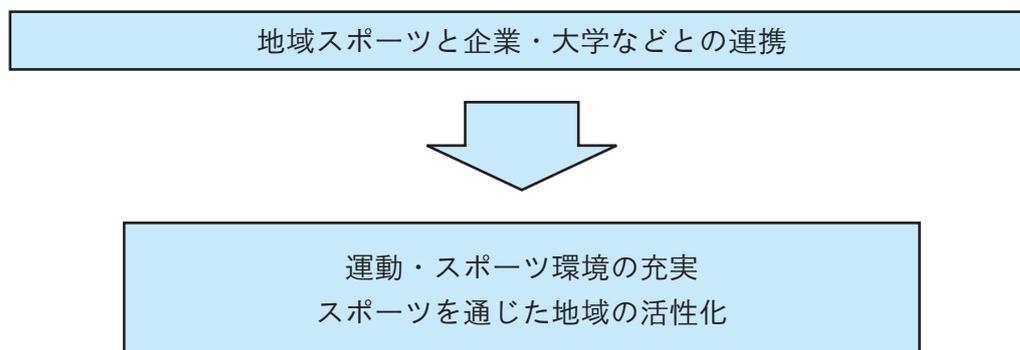
	現状と課題	今後の取組
アンケート 問23 (資料1)	長崎市公共施設案内・予約システム(*)を知らないと答えた人は68.2%と多く、また、知っていて利用したことがある人は5.5%と少ない状況にあります。	広報紙やホームページにより長崎市公共施設案内・予約システムの周知を図り、スポーツ施設の利用促進を図ります。
①	学校体育施設(小学校、中学校、高等学校の体育施設)については、少子化に伴う学校の統廃合などによる学校数の減少により、市民がこれまで以上に有効かつ効率的に活用できるようにすることが求められています。	休日及び夜間におけるグラウンドや体育館の一般開放を促進します。 予約方法の工夫などにより学校体育施設や公共スポーツ施設の利用稼働率を向上させます。 地元やスポーツ団体などのニーズに応じ、休校・廃校や空き教室などを積極的に活用します。
②	学校体育施設の共同利用化については、共同利用部分とそうでない部分との区分けが難しく、共同利用化を進めていくうえでの課題となっています。	学校体育施設開放に係る責任、負担や利用調整などを長崎市、学校及び地域が共同して担うことが可能となる施設の運営方法を検討します。
③	小学校は各小学校スポーツ開放運営協議会に、中学校については、各中学校スポーツ開放管理員に業務委託をしているが、特に中学校の管理員については、平日の夜間の業務であることなどから、なり手が少なく、人材の確保に苦慮しています。	学校の 신설、改築の際には、学校と地域が共同利用できる構造で施設を整備することを検討します。
④	学校体育施設の開放促進は、総合型地域スポーツクラブやスポーツ団体などの活性化の観点からも重要な課題となります。	

⑤	公共スポーツ施設については、市民がこれまで以上に有効かつ効率的に活用できるようにすることが求められています。	民間の資金や経営手法などの導入による多様な手法を活用し、利用者が活動しやすくなるように公共スポーツ施設などの整備又は管理運営方法を検討します。
⑥	市民体育館の耐震補強工事が平成24年度に完了するなど、市営の体育館及び市立小中学校の体育館については耐震化が完了していますが、武道場で耐震化が完了していない施設もあることから、早急に耐震化を進める必要があります。	耐震化が終了していないスポーツ施設の耐震化を実施します。
⑦	長崎市には、障害者が気軽に利用できるスポーツ施設としての機能を有する長崎市障害福祉センターがありますが、スポーツ基本法の趣旨を踏まえ、今後、障害者が、同センターのみならず、より身近な地域のスポーツ施設でスポーツに親しむことができるようにするためにも、地域のスポーツ施設における障害者に配慮した設備の整備が課題となっています。	地域のスポーツ施設において、バリアフリー化や温水シャワーなどの設備の充実に努めます。 また、長崎県障害者スポーツ協会などの障害者スポーツ団体と連携し、地域のスポーツ施設に対する障害者のニーズを把握します。



(4) 地域スポーツと企業・大学などとの連携

	現状と課題	今後の取組
①	<p>地域の運動・スポーツ環境を充実させるためには、地方公共団体、学校、地域スポーツクラブ、大学、企業など地域における様々な主体が、運動・スポーツ推進に関連して保有する様々な資源を最大限活用しつつ、連携・協働して取り組んでいくことが重要です。</p> <p>長崎市では、三菱重工長崎硬式野球部・ラグビー部、三菱日立パワーシステムズ長崎マラソン部、十八銀行陸上部などが、スポーツ教室などを開催し、地域に貢献しています。</p>	<p>運動やスポーツを地域振興に積極的に活用するため、スポーツ団体だけでなく、地域のスポーツチームを有する地元の企業や大学などと連携・協働するよう努めます。</p> <p>広報や場所の提供などにより地元企業や大学などの取組を支援するよう努めます。</p>
②	<p>長崎国際観光コンベンション協会においては、民間が主催するスポーツ大会の経費を一部補助する助成制度が設けられています。</p>	<p>長崎市においても、スポーツツーリズムによる地域の活性化を進めるため、行政と企業、スポーツ団体などとの連携を推進します。</p>



4 競技力の向上に向けた人材の養成、スポーツ環境の整備

【目標】

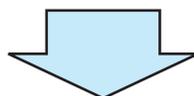
競技力の向上を図るため、ジュニア期からトップレベルに至る体系的な人材養成システムの構築や、スポーツ環境の整備を行います。

そうした取組を通して、今後、国際大会や全国大会などにおける入賞者数を増やすことを目標とします。

(1) ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の強化

	現状と課題	今後の取組
①	国際大会や国民体育大会などにおける長崎市のアスリートの活躍は、長崎市民としての誇りと喜び、夢と希望をもたらし、運動・スポーツに対する市民意識を高揚させるとともに、社会全体に活力を生み出し、国内における長崎市の存在感を高めます。	<p>学校や競技団体などと連携し、ジュニア期における個々のアスリートの特性や発達段階、学業とのバランスや本人のキャリア形成にも配慮した適切な支援に努め、一般・高校のアスリートの競技力の向上に繋がります。</p> <p>スポーツ大会などにおいて活躍したアスリート及び指導者などを積極的に表彰し、また、学校や行事などにおいて表彰者の紹介を行うことなどにより、アスリートの競技力向上に対する意欲を高めることができるよう努めます。</p>
②	長崎市では、平成26年の長崎国体に出場可能な年齢のジュニア層の競技力の向上のため、各競技団体が行う強化練習や講習会、遠征試合などの事業に対し、ジュニアスポーツ競技力向上対策費補助金を交付し、競技力の向上に努めてきました。	長崎国体を目指して行ってきたジュニアスポーツ競技力向上対策事業については、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、国体終了後もジュニア層の強化が一過性のものとならないように継続して取り組み、競技力の向上に努めます。

ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の強化

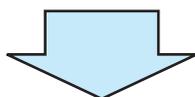


競技力の向上
運動・スポーツに対する市民意識の高揚

(2) スポーツ指導者及び審判員などの養成・研修やキャリア循環の形成

	現状と課題	今後の取組
①	競技団体などにおいて、必要なスポーツ指導者などが十分に確保されておらず、アスリートがスポーツ指導者などになるためのキャリア循環が十分とは言えない状況にあります。	競技団体と連携し、競技団体がスポーツ指導者及び審判員などの養成及び研修に取り組めるよう努めます。

スポーツ指導者及び審判員などの養成・研修やキャリア循環の形成



競技力の向上
運動・スポーツ環境の充実

5 国際大会、全国大会などの招致・開催などを通じたスポーツ振興、地域活性化、他都市との交流の推進

【目標】

スポーツ振興、地域活性化、他都市との交流を推進するため、国際大会、全国大会などの招致や円滑な開催、国際的・全国的な情報の収集・発信、人的ネットワークの構築などを行います。

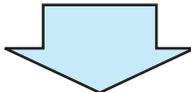
また、国際大会、全国大会やプロスポーツなどの試合を招致、開催することにより、市民のスポーツへの関心を高め、スポーツの振興と地域の活性化に繋がります。

(1) 国際大会、全国大会などの招致・開催など

	現状と課題	今後の取組
アンケート 問24 (資料1)	回答者の約3割(27.6%)が、試合会場でスポーツ観戦を行っています。平成15年のアンケート時(36.0%)と比べると、観戦者の割合は減少しています。	競技団体と連携し、市民が観戦したいと思うトップレベルのスポーツ大会の招致に努めます。
アンケート 問26 (資料1)	観戦に行きたいと思うトップレベルのスポーツ大会は、「プロ野球」(23.7%)が最も多く、次に「サッカーJリーグ」(19.5%)、「各種国際大会」(13.6%)、「大相撲」(9.3%)、「バレーボールVリーグ」(7.4%)などとなっています。	「長崎市民応援DAY」(*)を随時、実施するなど、V・ファーレン長崎のホームゲームでの集客を支援します。
①	<p>長崎がんばらんば国体及び長崎がんばらんば大会の開催に向けて、ハード面の対応としては、競技会場・練習会場となった市有施設については、中央競技団体からの指摘・要望事項をはじめ、県競技団体からの要望を受けて、10施設19項目、約28億円規模の施設整備を実施しており、併せて、競技団体などから要望があった施設改修、競技用具の整備についても実施しています。</p> <p>また、ソフト面の対応としては、競技団体において、審判員の養成をはじめ、国体の運営を通じた競技会運営能力の向上とノウハウの習得が図られており、今後は、審判員数の維持やノウハウの蓄積が課題となっています。</p>	長崎がんばらんば国体、長崎がんばらんば大会の競技会運営のノウハウや成果及び反省を活かし、今後、長崎市で開催される全国大会などを円滑に運営するため、ハード・ソフト両面での改善を各競技団体や関係機関と連携して行います。

②	<p>国体の開催により、施設の整備や競技会運営能力の向上が図られており、この実績を踏まえて国際大会、全国大会などを長崎市において招致・開催することは、単に競技力向上のみならず、広く市民のスポーツへの関心を高め、スポーツの振興や地域の活性化につながります。</p>	<p>今後、国際大会、全国大会などを招致・開催する上で、会場規模に応じた招致が必要となること、また、競技団体との連携が最も重要であることから、招致に向けた課題整理、招致体制の確立に努めます。</p>
③	<p>「観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2014」(*)においては、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」を見据えた観光振興として地方への波及を目指しています。</p>	<p>国体などで整備された施設を活用し、2020年東京オリンピック・パラリンピックや2019年ラグビーワールドカップの合宿、また、国際大会、全国大会、プロスポーツの試合などの招致を各競技団体、長崎県、長崎県観光連盟、長崎国際観光コンベンション協会などの関係団体と連携して促進します。</p> <p>オリンピックに向けて、長崎市と姉妹(友好)都市や市民友好都市となっている都市がある国の選手団などの合宿などの招致について積極的に努めます。</p> <p>※姉妹(友好)都市 セントポール市(アメリカ) ミデルブルフ市(オランダ) ポルト市(ポルトガル) サントス市(ブラジル) 福州市(中国) ヴォスロール村(フランス)</p> <p>※市民友好都市 アバディーン市(イギリス) 中山市(中国) ライデン市(オランダ) ヴェルツブルク市(ドイツ)</p>

国際大会、全国大会などの招致・開催など

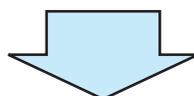


スポーツ環境の充実
 トップレベルのスポーツと身近で接する機会の増加
 運動・スポーツに対する市民意識の高揚
 スポーツを通じた地域の活性化

(2) スポーツに係る他都市との交流の推進

	現状と課題	今後の取組
①	長崎市で開催している長崎ベイサイドマラソンにおける上位入賞者を他都市のマラソン大会に派遣しています。 ※派遣実績 H25・26年度 ヨロンマラソン 2名	長崎ベイサイドマラソン以外の事業においても、庁内部局、長崎県観光連盟、長崎国際観光コンベンション協会などの関係団体と連携して、スポーツに関する他都市との交流を深めます。

スポーツに係る他都市との交流の推進



運動・スポーツの普及
スポーツを通じた地域の活性化

6 スポーツ界の好循環の創出

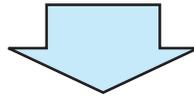
【目標】

トップレベルのスポーツの伸長とスポーツの裾野の拡大を促すスポーツ界における好循環の創出を目指し、トップレベルのスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働を推進する。

(1) トップレベルのスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進

	現状と課題	今後の取組
①	ジュニアアスリートの指導に関わるスポーツ指導者、スポーツ団体、保護者及び学校は、目先の大会などの結果のみにとらわれることなく、スポーツキャリア全体を含めた長期的な視点に立ってアスリートを育てていくことが必要であり、学業とのバランスも含め、キャリアデザインの重要性を認識することが重要です。	<p>競技団体と連携し、地域におけるスポーツ活動の中から潜在的な能力のある次世代のアスリートを戦略的に発掘、育成する体制の整備に努めます。</p> <p>育成されたアスリートが、総合型地域スポーツクラブなどにおいて地域のスポーツ指導者となり、自身が有する技術や経験、人間的な魅力をジュニアの育成や地域貢献などに還元し、あわせて自らの指導者としてのスキルアップを図るといった流れを作り出すことにより人材の好循環のサイクルを確立します。</p>
②	アスリート自身は、現役引退後のキャリアパス（＊）に漠然とした不安を感じているものの、引退後のセカンドキャリアに向け現役時代から計画的に準備する者は少なく、競技団体によるサポートもあまり行われていません。	<p>競技団体や大学と連携し、トップアスリートなどとしての経験を有する優れたスポーツ指導者などを活用し、総合型地域スポーツクラブの活動や学校の体育に関する活動などの支援に努めます。</p>
③	トップアスリートを含め、専門性を有するスポーツ指導者の活用は全体的には十分とは言えない状況にあります。	<p>地域のスポーツ活動全体をコーディネートするスポーツ推進委員を活用することにより効果的、効率的に総合型地域スポーツクラブや学校にスポーツ指導者などを派遣します。</p> <p>指導者が確実に定期的な指導を行えるよう、総合型地域スポーツクラブなどがスポーツ施設などを利用する際の優遇措置などについて検討します。</p>
④	現在、長崎市の職員採用試験においては、平成22年度から一般の採用枠とは別に、スポーツ等実績者の採用枠を設け、全国大会経験者などを採用しています。	民間企業におけるトップアスリートの採用を推進し、長崎市の競技力向上に繋がるよう努めます。

トップレベルのスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進



トップアスリートの創出
優秀な指導者の活用機会の増加
競技力の向上
地域スポーツの活性化
アスリート及び指導者の好循環サイクルの確立

【資料1】

長崎市民の運動・スポーツの実態に関する
アンケート集計結果

長崎市民の運動・スポーツの実態に関するアンケート集計結果

- ・実施時期：平成26年1月
- ・アンケート対象者：20歳以上の長崎市民2,000人を年代別、地区別、性別に均等無作為抽出
- ・有効回答者数：743人

【問1】あなたの性別をお答えください。

選択肢	H26		H15	
	人数	割合	人数	割合
男	360人	48.5%	246人	45.2%
女	374人	50.3%	298人	54.8%
不明	9人	1.2%	0人	0.0%
計	743人	100.0%	544人	100.0%

本アンケートの回答者は、男女ほぼ同じ割合で、平成15年のアンケート時と比べて男性の回答率が上昇している。

【問2】あなたの年齢（平成26年1月1日現在）をお答えください。

選択肢	H26		H15	
	人数	割合	人数	割合
20～29歳	61人	8.2%	44人	8.1%
30～39歳	92人	12.4%	76人	14.0%
40～49歳	112人	15.1%	106人	19.5%
50～59歳	124人	16.7%	126人	23.2%
60～69歳	141人	19.0%	93人	17.1%
70～79歳	122人	16.4%	75人	13.8%
80歳以上	87人	11.7%	19人	3.5%
不明	4人	0.5%	5人	0.9%
計	743人	100.0%	544人	100.0%

回答者の年齢は、「60歳代」（19.0%）が最も多く、次に「50歳代」（16.7%）、「70歳代」（16.4%）となっており、「20歳代」（8.2%）の回答率が最も低い。

平成15年のアンケート時と比べると、当時、最も回答率が高かった「50歳代」（23.2%）の世代が、今回の調査においても回答率が高かったことがうかがえる。

【問3】あなたのお住まいの地区（平成26年1月1日現在）を別表から選んでお答えください。

選択肢	H26		H15	
	人数	割合	人数	割合
東部地区	195人	26.2%	142人	26.1%
西部地区	170人	22.9%	89人	16.4%
南部地区	178人	24.0%	113人	20.8%
北部地区	192人	25.8%	188人	34.6%
不明	8人	1.1%	12人	2.2%
計	743人	100.0%	544人	100.0%

回答者の居住地区は、平成15年のアンケート時と比べ、西部地区住民の回答率が上がっており（16.4%→22.9%）、今回のアンケートにおいては、各地区の住民からほぼ均等に回答がなされている。

【問4】あなたのご職業をお答えください。

※H15のアンケートには、【問4】と同じ質問はありませんでした。

選択肢	H26	
	人数	割合
会社員・団体職員・公務員	205人	27.6%
契約社員・派遣社員	26人	3.5%
アルバイト・パートタイマー	77人	10.4%
自営業主・家族従業者	54人	7.3%
専業主婦・主夫	115人	15.5%
学生	14人	1.9%
無職	225人	30.3%
その他	19人	2.6%
不明	8人	1.1%
計	743人	100.0%

回答者の職業は、「無職」（30.3%）が最も多く、次に「会社員・団体職員・公務員」（27.6%）、「専業主婦・主夫」（15.5%）、「アルバイト・パートタイマー」（10.4%）などとなっている。

【問5】あなたの同居しているご家族の中に、小学生、中学生又は高校生がいますか。（複数回答可）

※H15のアンケートには、【問5】と同じ質問はありませんでした。

選 択 肢	H26	
小学生がいる	91人	11.6%
中学生がいる	50人	6.4%
高校生がいる	64人	8.1%
いずれもない	582人	74.0%
計	787人	100.0%

家族の中に小中高生がいる回答者は少なく、その割合は全体の約4分の1（26.0%）で、小学生の家族がいる回答者は、約1割（11.6%）となっている。

【問6】あなたは、ご自身の健康状態をどのように自覚していますか。

選 択 肢	H26		H15	
大いに健康である	106人	14.3%	84人	15.4%
どちらかという健康である	441人	59.4%	351人	64.5%
どちらかという健康ではない	103人	13.9%	70人	12.9%
健康ではない	86人	11.6%	35人	6.4%
不明	7人	0.9%	4人	0.7%
計	743人	100.0%	544人	100.0%

回答者の健康状態は、「どちらかという健康である」（59.4%）が最も多いが、平成15年のアンケート時（64.5%）と比べて、その割合は減少しており、これに対して、「健康ではない」（11.6%）と回答している人が、平成15年のアンケート時（6.4%）と比べて増加している。

【問7】あなたは、余暇時間について、十分に確保できていますか。

選 択 肢	H26		H15	
十分とることができている	233人	31.4%	115人	21.1%
だいたいとることができている	343人	46.2%	251人	46.1%
あまりとることができていない	134人	18.0%	133人	24.4%
ほとんどとることができていない	29人	3.9%	38人	7.0%
不明	4人	0.5%	7人	1.3%
計	743人	100.0%	544人	100.0%

回答者の余暇時間は、「だいたいとることができている」（46.2%）と「十分とることができている」（31.4%）とを合せて8割弱（77.6%）の人達が、余暇時間を確保できており、平成15年のアンケート時（67.2%）と比べて、その割合は増加している。

【問8】あなたが、この1年間に行った運動やスポーツは何ですか。（複数回答可）

※H15のアンケートには、【問8】と同じ質問はありませんでした。

選 択 肢	H26	
ウォーキング（散歩）	298人	18.5%
体操（ラジオ体操・がんばらば体操）	121人	7.5%
釣り	69人	4.3%
室内器具を使っの運動	69人	4.3%
ランニング・ジョギング	60人	3.7%
ボウリング	55人	3.4%
ゴルフ	51人	3.2%
水泳（水球・シンクロを含む）	43人	2.7%
バドミントン	37人	2.3%
登山（クライミングを含む）	36人	2.2%
ヨガ・ピラティス	34人	2.1%
ハイキング	33人	2.1%
キャッチボール	33人	2.1%
自転車・サイクリング	31人	1.9%
ソフトボール	27人	1.7%
卓球	26人	1.6%
トレーニングDVDによる室内運動	24人	1.5%
バレーボール	24人	1.5%

サッカー・フットサル	22人	1.4%
縄跳び	20人	1.2%
水中運動（ウォーキング・アクアエクササイズ）	20人	1.2%
陸上	19人	1.2%
グラウンド・ゴルフ	19人	1.2%
ソフトバレー・ミニバレー	19人	1.2%
野球（硬式・軟式）	17人	1.1%
バスケットボール	16人	1.0%
W i iフィットなど	16人	1.0%
エアロビクス（美容体操）	15人	0.9%
ダンス（ジャズ・社交ダンス）	15人	0.9%
スキー・スノーボード	13人	0.8%
テニス	12人	0.7%
キャンプ	11人	0.7%
ビリヤード	11人	0.7%
ドッジボール	9人	0.6%
綱引き	8人	0.5%
太極拳	7人	0.4%
モーターサイクルスポーツ	6人	0.4%
体操（器械体操・新体操）	5人	0.3%
スクーバダイビング	5人	0.3%
ラグビー・タグラグビー	3人	0.2%
ボクシング	3人	0.2%
カヌー	3人	0.2%
馬術・乗馬	3人	0.2%
ゲートボール	3人	0.2%
サーフィン・ウェイクボード	3人	0.2%
スケート	3人	0.2%
ソフトテニス	2人	0.1%
剣道	2人	0.1%
弓道	2人	0.1%
テコンドー	2人	0.1%
オリエンテーリング	2人	0.1%
柔道	1人	0.1%
空手	1人	0.1%
レスリング	1人	0.1%
ボート	1人	0.1%
トライアスロン・アクアスロン	1人	0.1%
セーリング（ヨット）	0人	0.0%
ハンドボール	0人	0.0%
ライフル射撃	0人	0.0%
相撲	0人	0.0%
アーチェリー	0人	0.0%
銃剣道	0人	0.0%
フェンシング	0人	0.0%
クレー射撃	0人	0.0%
なぎなた	0人	0.0%
合気道	0人	0.0%
インディアカ	0人	0.0%
少林寺拳法	0人	0.0%
バトン	0人	0.0%
その他	17人	1.1%
運動やスポーツは行っていない	196人	12.3%
わからない	2人	0.1%
計	1,607	100.0%

<その他の内容>

・ストレッチ	2人	・フォークダンス	2人
・ペタンク	2人	・筋力トレーニング	2人
・ペーロン	1人	・フラダンス	1人
・マタニティビクス	1人	・リハビリ	1人
・不明	5人		

回答者が1年間に行った運動やスポーツは、「ウォーキング(散歩)」(18.5%)が最も多く、次に「体操(ラジオ体操・がんばらんば体操)」(7.5%)、「釣り」(4.3%)、「室内器具を使っての運動」(4.3%)、「ランニング・ジョギング」(3.7%)などとなり、1人又は少人数でも行えるものが上位を占めている。

また、「運動やスポーツは行っていない」(12.3%) (回答者全体の26.4%【問9-1】参照)と答えた人の割合も高い。

【問8】で「運動やスポーツは行っていない」又は「わからない」を選択された方以外の方にお伺いします。

【問9-1】あなたは、この1年間に運動やスポーツをどの程度、行いましたか。

選 択 肢	H26	
週に3日以上	173人	23.3%
週に1～2日	140人	18.8%
月に1～3日	104人	14.0%
3ヶ月に1～2日	49人	6.6%
年に1～3日	49人	6.6%
不明	30人	4.0%
問8で「運動やスポーツは行っていない」と回答した人	196人	26.4%
問8で「わからない」と回答した人	2人	0.3%
計	743人	100.0%

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とは選択肢が大きく異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H15	
ほぼ毎日	9人	1.7%
週2～4回程度	53人	9.7%
週1回程度	53人	9.7%
月に1～2回程度	24人	4.4%
年4～5回程度	4人	0.8%
運動・スポーツを行っていない	401人	73.7%
計	544人	100.0%

成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率	H26		H15	
	313人	42.1%	115人	21.1%

回答者の週1回以上の運動・スポーツ実施率(42.1%)は、平成15年のアンケート時(21.1%)と比べ大きく上昇しているが、運動やスポーツを行っていない人(26.4%)の割合は決して低いとは言えない。

【問9-2】あなたが、運動やスポーツをするのはどんな理由からですか。(複数回答可)

選 択 肢	H26		H15	
	健康づくりのため	296人	16.4%	89人
運動不足解消のため	263人	14.6%	59人	23.6%
体力づくりのため	196人	10.9%	—	—
気晴らし・気分転換のため	164人	9.1%	—	—
趣味・楽しみのため	162人	9.0%	97人	38.8%
老化防止のため	135人	7.5%	—	—
友人・仲間との交流のため	123人	6.8%	1人	0.4%
ストレス解消のため	119人	6.6%	—	—
美容・ダイエットのため	86人	4.8%	2人	0.8%
自然と触れ合うため	58人	3.2%	—	—
家族との触れ合いのため	48人	2.7%	1人	0.4%
リハビリのため	45人	2.5%	—	—
自己の技術・能力向上のため	35人	1.9%	—	—

気力・精神力を養うため	27人	1.5%	—	—
チームの勝利のため	17人	0.9%	—	—
自己の記録更新のため	12人	0.7%	—	—
その他	19人	1.1%	1人	0.4%
計	1,805人	100.0%	250人	100.0%

<その他の内容>

・職場や仕事の関係上、行う必要があるため	6人
・子供が行っているスポーツでの交流や手伝いのため	3人
・大会等に参加するため	2人
・子供の学校行事（親子レクリエーション）	2人
・通勤のため	1人
・習慣となっている	1人
・犬の散歩	1人
・部活動の指導の為	1人
・運動やスポーツが好きなため	1人
・妊娠中の体力づくり、太り過ぎ防止のため	1人

回答者が運動やスポーツをする理由は、「健康づくりのため」（16.4%）が最も多く、次に「運動不足解消のため」（14.6%）、「体力づくりのため」（10.9%）、「気晴らし・気分転換のため」（9.1%）、「趣味・楽しみのため」（9.0%）などとなっており、逆に「自己の技術・能力向上のため」（1.9%）、「気力・精神力を養うため」（1.5%）、「チームの勝利のため」（0.9%）、「自己の記録更新のため」（0.7%）などの競技力向上等に関することを理由としている人は少ない。

また、その他の理由として、「職場や仕事の関係上、行う必要があるため」、「子供が行っているスポーツでの交流や手伝いのため」、「大会等に参加するため」、「子供の学校行事（親子レクリエーション）のため」などの回答があった。

【問9-3】あなたの運動やスポーツに係る1ヶ月の費用はどのくらいですか。

選 択 肢	H26		H15	
500円未満	219人	40.2%	16人	11.4%
500円～1,000円未満	64人	11.7%	28人	20.0%
1,000円～5,000円未満	125人	22.9%	52人	37.1%
5,000円～10,000円未満	56人	10.3%	23人	16.4%
10,000円～30,000円未満	38人	7.0%	21人	15.0%
30,000円以上	6人	1.1%	0人	0.0%
不明	37人	6.8%	0人	0.0%
計	545人	100.0%	140人	100.0%

回答者の運動やスポーツに係る1ヶ月の費用は、「500円未満」（40.2%）が最も多く、次に「1,000円～5,000円未満」（22.9%）、「500円～1,000円未満」（11.7%）、「5,000円～10,000円未満」（10.3%）などとなっており、平成15年のアンケート時と比べて、運動やスポーツにあまり費用をかけないようになった傾向が見受けられる。

【問9-4】あなたは、運動やスポーツを誰と行いますか。（複数回答可）

選 択 肢	H26		H15	
自分一人で	295人	38.1%	0人	0.0%
家族と	151人	19.5%	26人	16.7%
友人と	114人	14.7%	4人	2.6%
所属クラブ等の仲間と	93人	12.0%	87人	55.8%
会社の仲間と	60人	7.7%	13人	8.3%
地域の仲間と	53人	6.8%	20人	12.8%
その他	9人	1.2%	6人	3.8%
計	775人	100.0%	156人	100.0%

<その他の内容>

・犬	2人	・夫婦	1人
・親戚	1人	・教え子	1人
・ゴルフコンペ	1人	・お得意様	1人
・病院スタッフ	1人	・施設入所者	1人

回答者が運動やスポーツを一緒に行う相手は、「自分一人で」（38.1%）が最も多く、次に「家族と」（19.5%）、「友人と」（14.7%）、「所属クラブ等の仲間と」（12.0%）などとなっており、平成15年のアンケート

ト時と比べて、「自分一人で」運動やスポーツを行う人の割合が大幅に増えている。逆に、「所属クラブ等の仲間と」及び「地域の仲間と」行う人の割合が大きく減少している。

【問9-5】あなたの運動・スポーツができる時間帯はいつですか。（複数回答可）

※H15のアンケートには、【問9-5】と同じ質問はありませんでした。

選択肢	H26	
平日早朝（5時頃～9時頃）	75人	9.2%
平日昼間（9時頃～18時頃）	278人	34.1%
平日夜間（18時頃～24時頃）	141人	17.3%
休日早朝（5時頃～9時頃）	29人	3.6%
休日昼間（9時頃～18時頃）	221人	27.1%
休日夜間（18時頃～24時頃）	63人	7.7%
深夜（0時頃～5時頃）	8人	1.0%
計	815人	100.0%

回答者の運動・スポーツができる時間帯は、「平日昼間」（34.1%）が最も多く、次に「休日昼間」（27.1%）などとなっている。

【問8】で「運動やスポーツは行っていない」又は「わからない」を選択された方にお伺いします。

【問10】あなたが、運動やスポーツを行わない理由、また、運動やスポーツを行う際に、困っていることや妨げになっていることは何ですか。（複数回答可）

選 択 肢	H26	
高齢である	65人	11.5%
健康や体力に自信がない	53人	9.4%
病気、けが、体調が悪い	48人	8.5%
運動やスポーツが好きでない	36人	6.4%
仕事、家事、勉強で疲れている	29人	5.1%
他の趣味がある	29人	5.1%
家事で忙しい	24人	4.2%
休暇がない	23人	4.1%
身近に施設がない	23人	4.1%
障害がある	22人	3.9%
一緒に行く仲間がいない	22人	3.9%
スポーツクラブの会費（入会金等）が高い	22人	3.9%
施設を利用するのにお金がかかる	21人	3.7%
勤務時間が長い	19人	3.4%
仕事などで体を使っており、特に運動やスポーツを行う必要がない	19人	3.4%
子どもに手がかかる	18人	3.2%
身近な所にスポーツクラブ、同好会やサークルがない	18人	3.2%
用具にお金がかかる	16人	2.8%
運動やスポーツに関する情報が不足している	14人	2.5%
世話を必要とする人がいる	8人	1.4%
指導者がいない	6人	1.1%
行いたい運動やスポーツの種目やプログラムがない	6人	1.1%
運動やスポーツに関して嫌な経験がある	6人	1.1%
通勤時間が長い	5人	0.9%
勉強で忙しい	1人	0.2%
その他	12人	2.1%
計	565人	100.0%

＜その他の内容＞

・交通手段がない	1人
・余裕がない	1人
・駐車場の空きが少ない	1人
・歩道が狭くウォーキング等がしにくい	1人
・運動やスポーツを行う気がない	1人
・団体行動をしたくない	1人
・帰宅が遅い	1人
・妊娠・出産	1人
・体調に合わせた運動をアドバイスしてくれる人がいない	1人
・勤務時間や休日が不定期なため、ジム等に通えない	1人

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とは選択肢が大きく異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H26	
忙しくて時間がないから	126人	17.2%
仕事や家事で疲れているから	103人	14.1%
身近に適当な施設や場所がない	92人	12.6%
適当な相手や仲間がない	92人	12.6%
健康上の理由	84人	11.5%
費用がかかる	59人	8.1%
何かと面倒だから	44人	6.0%
運動やスポーツは好きではない	36人	4.9%
何をしたいのかわからない	36人	4.9%
肉体労働なので特に運動する必要はない	27人	3.7%
適当な指導者がいない	19人	2.6%
あまり効果がないと思うから	1人	0.1%
その他	13人	1.8%
計	732人	100.0%

回答者が運動やスポーツを行わない理由は、「高齢である」(11.5%)が最も多く、次に「健康や体力に自信がない」(9.4%)、「病気、けが、体調が悪い」(8.5%)、「運動やスポーツが好きでない」(6.4%)、「仕事、家事、勉強で疲れている」(5.1%)、「他の趣味がある」(5.1%)などとなっている。

【問11】あなたは、今後、どのくらいの頻度で運動やスポーツを行いたいですか。

選 択 肢	H26	
週に3日以上	184人	24.8%
週に1～2日	204人	27.5%
月に1～3日	107人	14.4%
3ヶ月に1～2日	15人	2.0%
年に1～3日	10人	1.3%
行いたくない	91人	12.2%
不明	132人	17.8%
計	743人	100.0%

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とは選択肢が大きく異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H15	
ほぼ毎日	14人	2.6%
週2～4回程度	80人	14.7%
週1回程度	43人	7.9%
月に1～2回程度	3人	0.6%
年4～5回程度	3人	0.6%
不明	401人	73.7%
計	544人	100.0%

回答者が希望する運動・スポーツの実施頻度は、「週に1～2日」(27.5%)が最も多く、次に「週に3日以上」(24.8%)、「月に1～3日」(14.4%)が上位を占め、この上位3つを合計(66.7%)してはじめて、成人の週1回以上のスポーツ実施率についてスポーツ基本計画が目標としている65%に達する。

また、「行いたくない」(12.2%)は、【問8】で「運動やスポーツは行っていない」と回答した人(26.4%) (【問9-1】参照)の46.2%で、実際に運動やスポーツを行いたくても行えない人が多いことがうかがえる。

【問12】あなたは、この3年間に長崎市で開催された運動やスポーツに関するイベント・大会に参加したことがありますか。(複数回答可)

※H15のアンケートには、【問12】と同じ質問はありませんでした。

選 択 肢	H26	
市民体育・レクリエーション祭	46人	6.0%
各競技団体が主催する大会	35人	4.6%
レクリエーション・スポーツ教室	25人	3.3%
長崎ベイサイドマラソン&ウオーク	25人	3.3%
その他	18人	2.4%
地域スポーツ教室	17人	2.2%
長崎新春駅伝	7人	0.9%
参加したことがない	591人	77.4%
計	764人	100.0%

<その他の内容>

・PTA主催の運動会等	3人
・老人クラブ連合会等主催のスポーツ大会	2人
・町・地区の体育祭	1人
・PTA主催の運動会等	1人
・高島さるく、市内すごろくさるく	1人
・ペタンク	1人
・お手軽ウオーク	1人
・ペーロン	1人
・さわやか運動教室	1人
・長崎市民ナイターソフトボール大会	1人
・学校行事	1人
・グラウンド・ゴルフ大会	1人
・労働組合のバレー大会	1人
・ゲートボール大会	1人
・ゴルフ場主催の月例杯	1人

回答者が3年間で参加したイベントは、「市民体育・レクリエーション祭」(6.0%)が最も多く、次に「各競技団体が主催する大会」(4.6%)、「レクリエーション・スポーツ教室」(3.3%)、「長崎ベイサイドマラソン&ウオーク」(3.3%)などとなっており、また、「参加したことがない」(77.4%)が非常に多い。

また、その他の大会として、「PTA主催の運動会等」、「老人クラブ連合会等主催のスポーツ大会」などの回答があった。

【問13】あなたは、総合型地域スポーツクラブを知っていますか。

選 択 肢	H26	
知っており、加入している	7人	0.9%
知っているが、加入していない	79人	10.6%
知らない	624人	84.0%
不明	33人	4.4%
計	743人	100.0%

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とは選択肢が異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H15	
言葉も内容も知っている	40人	7.3%
言葉だけは知っている	86人	15.8%
知らない	404人	74.3%
不明	14人	2.6%
計	544人	100.0%

総合型地域スポーツクラブを知らない人が84.0%と多数を占めており、平成15年のアンケート時(74.3%)よりも増加している。

【問14】あなたは、現在、スポーツ団体、運動やスポーツに関する同好会、サークル等へ加入していますか。

選 択 肢	H26		H15	
	加入している	104人	14.0%	104人
加入していない	600人	80.8%	397人	73.0%
不明	39人	5.2%	43人	7.9%
計	743人	100.0%	544人	100.0%

スポーツ団体、運動やスポーツに関する同好会、サークル等へ加入している回答者は、(14.0%)と非常に少なく、平成15年のアンケート時(19.1%)よりも減少している。

<加入している種目の種目名等>

・グラウンド・ゴルフ	10人	・ソフトボール	8人
・ゴルフ	8人	・テニス	6人
・卓球	6人	・サッカー	5人
・バドミントン	5人	・太極拳	5人
・エアロビクス	5人	・バスケットボール	4人
・バレーボール	4人	・ボウリング	4人
・フィットネスクラブ	4人	・体操	3人
・野球	3人	・スイミングクラブ	2人
・ラグビーフットボール	2人	・テコンドー	2人
・ダンス	1人	・ペーロン	1人
・ゲートボール	1人	・サイクリング	1人
・ソフトバレーボール	1人	・登山	1人
・バレエ	1人	・ヨガ	1人
・3B体操	1人	・不明	8人

【問14】で「加入している」を選択された方にお伺いします。

【問15】あなたが、主に活動しているスポーツ団体等の構成人数は何人くらいですか。

選択肢	H26	
1～5人	2人	1.4%
6～10人	8人	5.6%
11～20人	44人	30.8%
21～50人	27人	18.9%
51～100人	7人	4.9%
101人以上	15人	10.5%
不明	40人	28.0%
計	143人	100.0%

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とは選択肢が大きく異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H15	
10人未満	10人	9.8%
10人以上20人未満	39人	38.2%
20人以上30人未満	23人	22.5%
30人以上40人未満	7人	6.9%
40人以上50人未満	4人	3.9%
50人以上	19人	18.6%
計	102人	100.0%

回答者が主に活動しているスポーツ団体等の構成人数は、「11～20人」(30.8%)が最も多く、次に「21～50人」(18.9%)、「101人以上」(10.5%)などとなっている。

【問16】あなたが、所属するスポーツ団体等の構成メンバーの平均年齢は何歳くらいですか。

選択肢	H26		H15	
	20～29歳	11人	7.7%	3人
30～39歳	21人	14.7%	11人	10.9%
40～49歳	18人	12.6%	17人	16.8%
50～59歳	14人	9.8%	23人	22.8%
60～69歳	18人	12.6%	26人	25.7%
70～79歳	18人	12.6%	20人	19.8%

80歳以上	2人	1.4%	1人	1.0%
不明	41人	28.7%	0人	0.0%
計	143人	100.0%	101人	100.0%

回答者が所属するスポーツ団体等の平均年齢は、「30～39歳」（14.7%）が最も多く、次に「40～49歳」、「60～69歳」、「70～79歳」とも同じ割合（12.6%）となっており、平成15年のアンケート時と比べると、50歳代以上の人達のスポーツ団体等への加入率が大きく低下している。（69.3%→36.4%）

【問14】で「加入していない」を選択された方にお伺いします。

【問17】あなたが、スポーツ団体等に加入していない理由は何ですか。（複数回答可）

選 択 肢	H26	
高齢である	99人	7.3%
運動やスポーツに関する情報が不足している	97人	7.1%
健康や体力に自信がない	91人	6.7%
他の趣味がある	86人	6.3%
運動やスポーツが好きでない	79人	5.8%
仕事、家事、勉強で疲れている	79人	5.8%
勤務時間が長い	77人	5.6%
病気、けが、体調が悪い	74人	5.4%
家事で忙しい	66人	4.8%
身近に施設がない	65人	4.8%
一緒に行く仲間がいない	64人	4.7%
施設を利用するのにお金がかかる	59人	4.3%
休暇がない	53人	3.9%
子どもに手がかかる	52人	3.8%
身近な所にスポーツクラブ、同好会やサークルがない	51人	3.7%
スポーツクラブの会費（入会金等）が高い	46人	3.4%
障害がある	37人	2.7%
用具にお金がかかる	31人	2.3%
行いたい運動やスポーツの種目やプログラムがない	29人	2.1%
世話を必要とする人がいる	28人	2.1%
仕事などで体を使っており、特に運動やスポーツを行う必要がない	28人	2.1%
通勤時間が長い	15人	1.1%
運動やスポーツに関して嫌な経験がある	10人	0.7%
勉強で忙しい	9人	0.7%
指導者がいない	4人	0.3%
その他	34人	2.5%
計	1,363人	100.0%

<その他の内容>

・スポーツ団体等の活動時間と時間が合わない	5人
・興味がない	5人
・団体に所属する必要のない運動・スポーツを行っている	3人
・特に理由はない	3人
・個人でウォーキングしているから	2人
・スポーツ団体等を知らないから	2人
・加入する必要がない	2人
・団体での活動が苦手	2人
・引退した	2人
・1人で運動等をするのが好き	2人
・遊び感覚で気楽に行いたいから	1人
・所属していたスポーツ団体等がなくなった	1人
・スポーツ団体等に入ると個人で自由に動けなくなるのではと心配	1人
・団体の規則に縛られたくない	1人
・定期的に運動しない	1人

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とでは選択肢が大きく異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H15	
活動の時間・回数が合わない	130人	22.2%
クラブを知らない	116人	19.8%
会費が高い	78人	13.3%
スポーツをしない	75人	12.8%
活動場所が遠い・交通の便が悪い	61人	10.4%
個人で活動したい	50人	8.5%
人間関係がわずらわしい	37人	6.3%
種目が合わない	13人	2.2%
健康上の理由	10人	1.7%
時間がない	4人	0.7%
その他	11人	1.9%
計	585人	100.0%

回答者がスポーツ団体等に加入していない理由は、「高齢である」(7.3%)が最も多く、次に「運動やスポーツに関する情報が不足している」(7.1%)、「健康や体力に自信がない」(6.7%)、「他の趣味がある」(6.3%)、「運動やスポーツが好きでない」(5.8%)などとなっている。

【問18】あなたは、スポーツ推進委員を知っていますか。

※H15のアンケートには、【問18】と同じ質問はありませんでした。

選 択 肢	H26	
知っており、活用したことがある	12人	1.6%
知っているが、活用したことはない	118人	15.9%
知らない	583人	78.5%
不明	30人	4.0%
計	743人	100.0%

スポーツ推進委員を知らない回答者が、78.5%と多く、また、知っているも活用したことがある人は、1.6%と少ない。

【問19】あなたは、スポーツ少年団を知っていますか。

※H15のアンケートには、【問19】と同じ質問はありませんでした。

選択肢	H26	
知っている	276人	37.1%
知らない	431人	58.0%
不明	36人	4.8%
計	743人	100.0%

スポーツ少年団を「知っている」と答えた回答者は、37.1%で、「知らない」と答えた回答者は、58.0%となっている。

【問20】あなたが、運動やスポーツをする場所は、どういうところが多いですか。(複数回答可)

選 択 肢	H26		H15	
	人数	割合	人数	割合
自宅	176人	17.9%	85人	12.7%
公園・広場	173人	17.6%	131人	19.6%
市内の公共スポーツ施設	111人	11.3%	157人	23.5%
市内の民間スポーツ施設	96人	9.8%	97人	14.5%
自宅の近所の空き地など	90人	9.2%	85人	12.7%
学校の施設	59人	6.0%	58人	8.7%
市外の民間スポーツ施設	18人	1.8%	19人	2.8%
市外の公共スポーツ施設	18人	1.8%	21人	3.1%
職場にあるスポーツ施設	16人	1.6%	15人	2.2%
その他	48人	4.9%	0人	0.0%
運動やスポーツは行っていない	177人	18.0%	0人	0.0%
計	982人	100.0%	668人	100.0%

<その他の内容>

・道路	24人	・山、川など	7人
・公民館	6人	・福祉施設	2人
・ふれあいセンター	2人	・釣り場	2人
・海	2人	・畑	1人
・病院	1人	・友人宅	1人

回答者が運動やスポーツをする場所は、「自宅」(17.9%)が最も多く、次に「公園・広場」(17.6%)、「市内の公共スポーツ施設」(11.3%)などとなっている。

平成15年のアンケート時と比べると、市内の公共スポーツ施設(23.5%→11.3%)で運動やスポーツをする人が減少しており、逆に、自宅(12.7%→17.9%)で運動やスポーツをする人が増加していることがうかがえる。

また、その他の場所として、「道路」、「山、川など」、「公民館」などの回答があった。

【問21-1】あなたが、スポーツ施設に望むことは何ですか。(複数回答可)

選 択 肢	H26	
使用料の値下げ	166人	15.5%
施設の数を増やしてほしい	139人	13.0%
駐車場の整備	128人	12.0%
用具・設備の充実	94人	8.8%
利用手続きの簡素化	75人	7.0%
障害者や高齢者への配慮	49人	4.6%
利用終了時間を遅くしてほしい	45人	4.2%
グラウンドに夜間照明を設置してほしい	30人	2.8%
利用開始時間を早めてほしい	13人	1.2%
特に望むことはない	315人	29.5%
その他	15人	1.4%
計	1,069人	100.0%

<その他の内容>

・施設を利用するための情報がほしい	4人
・利用しやすい場所に設置してほしい	2人
・温水プール、スポーツジム、風呂を併設してほしい	1人
・グラウンドの整備、土の入れ替え	1人
・施設休館日の変更	1人
・施設を広くしてほしい	1人
・地域団体の優先利用	1人
・駐車場の無料化	1人
・冬でも夜間照明を使用したい	1人
・わからない	2人

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とは選択肢が大きく異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H15	
身近に利用できるよう、施設数の増加	229人	20.1%
初心者向けスポーツ教室や行事の充実	165人	14.5%
利用時間帯の増大(早朝・夜間など)	164人	14.4%
利用案内など広報の充実	147人	12.9%
利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化	129人	11.3%
健康やスポーツに関する情報の充実	105人	9.2%
託児施設の充実	48人	4.2%
指導者の配置	42人	3.7%
アフタースポーツのための施設の充実	39人	3.4%
特になし	63人	5.5%
その他	6人	0.5%
計	1,137人	100.0%

回答者がスポーツ施設に望むことは、「使用料の値下げ」(15.5%)が最も多く、次に「施設の数を増やしてほしい」(13.0%)、「駐車場の整備」(12.0%)などとなっている。

平成15年のアンケート時と比べても、施設数の増加を求める声は依然として高い。

【問21-1】で「特に望ことはない」を選択された方以外の方にお伺いします。

【問21-2】それは、具体的にどこの施設またはどのような種類の施設のことですか。

＜施設名等＞

体育館、運動公園、グラウンド、陸上競技場、学校施設、野球場、ソフトボール場、サッカー場、フットサル場、プール、テニスコート、アーチェリー場、弓道場、卓球場、ダンス場、公民館、ふれあいセンター、グラウンド・ゴルフ場、民間の運動施設、体操教室、ボルダリング用施設など多数

【問22】あなたが、長崎市内に新しく設置してほしいスポーツ施設は何ですか。

選 択 肢	H26	
多目的グラウンド	89人	12.2%
プール	76人	10.4%
体育館	34人	4.7%
テニスコート	16人	2.2%
サッカー場	13人	1.8%
バスケットボールコート（屋外用）	11人	1.5%
ソフトボール場	9人	1.2%
野球場	7人	1.0%
フットサル場	6人	0.8%
武道場	6人	0.8%
ゲートボール場	6人	0.8%
陸上競技場	5人	0.7%
その他	38人	5.2%
不明	129人	17.7%
特に設置してほしい施設はない	285人	39.0%
計	730人	100.0%

＜その他の内容＞

・スポーツジム	8人	・屋内多目的室	4人
・卓球場	3人	・スケートリンク	3人
・高齢者向けの運動施設	2人	・ウォーキングコース	2人
・ラグビー場	1人	・グラウンド・ゴルフ場	1人
・アーチェリー場	1人	・アスレチック施設	1人
・屋内多目的グラウンド	1人	・カヌー等の練習場	1人
・車椅子ダンス練習場	1人	・市営ゴルフ場	1人
・ゴルフ練習場	1人	・サイクリングロード	1人
・天然芝のグラウンド	1人	・ドーム	1人
・フットサル場	1人	・ボルダリング用施設	1人
・体力強化のための遊具	1人	・トレーニングのための屋内練習場	1人

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とでは選択肢が大きく異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H15	
温水プール	204人	23.5%
多目的なグラウンド	198人	22.8%
体育館	149人	17.2%
テニスコート	72人	8.3%
野球・ソフトボール場	47人	5.4%
グラウンド・ゴルフ場	42人	4.8%
陸上グラウンド	32人	3.7%
武道場	32人	3.7%
サッカー場	26人	3.0%
フットサル場	18人	2.1%
ゲートボール場	10人	1.2%
ジム・体力測定施設	4人	0.5%
雨天時に遊ぶことができる公園整備	3人	0.3%
その他	30人	3.5%
計	867人	100.0%

回答者が長崎市内に新しく設置してほしい施設は、「多目的グラウンド」(12.2%)が最も多く、次に「プール」(10.4%)、「体育館」(4.7%)などとなっている。

また、その他の施設として、「スポーツジム」、「屋内多目的室」、「卓球場」、「スケートリンク」などの回答があった。

平成15年のアンケート時と比べても、多目的グラウンド、プール、体育館の新設を求める声は依然として高い。

【問23】あなたは、自宅のパソコンや携帯電話から施設の予約ができる「長崎市公共施設案内・予約システム」をご存知ですか。

※H15のアンケートには、【問23】と同じ質問はありませんでした。

選 択 肢	H26	
知っており、利用したことがある	41人	5.5%
知っているが、利用したことはない	171人	23.0%
知らない	507人	68.2%
不明	24人	3.2%
計	743人	100.0%

長崎市公共施設案内・予約システムを知らない人は、68.2%と多く、また、知っているが利用したことがある人は、5.5%と少ない。

【問24】あなたは、この1年間に試合会場でスポーツ観戦を行ったことがありますか。

選択肢	H26		H15	
あ る	205人	27.6%	196人	36.0%
な い	511人	68.8%	337人	61.9%
不 明	27人	3.6%	11人	2.0%
計	743人	100.0%	544人	100.0%

回答者の約3割(27.6%)が、試合会場でスポーツ観戦を行っているが、平成15年のアンケート時(36.0%)と比べると、観戦者の割合は減少している。

【問24】で「ある」を選択された方にお伺いします。

【問25】あなたが、試合会場で観戦した種目は何ですか。(複数回答可)

選 択 肢	H26		H15	
サッカー	84人	23.5%	34人	12.2%
野球	79人	22.1%	116人	41.6%
陸上(マラソン・駅伝を含む)	33人	9.2%	7人	2.5%
バスケットボール	22人	6.1%	20人	7.2%
ソフトボール	21人	5.9%	9人	3.2%
バドミントン	17人	4.7%	—	—
ラグビー	15人	4.2%	7人	2.5%
テニス	14人	3.9%	29人	10.4%
バレーボール	11人	3.1%	19人	6.8%
水泳	11人	3.1%	7人	2.5%
ゴルフ	9人	2.5%	9人	3.2%
空手道	9人	2.5%	—	—
卓球	6人	1.7%	—	—
剣道	5人	1.4%	—	—
相撲	5人	1.4%	—	—
体操	3人	0.8%	—	—
柔道	2人	0.6%	—	—
新体操	2人	0.6%	—	—
その他	10人	2.8%	22人	7.9%
計	358人	100.0%	279人	100.0%

＜その他の内容＞

・グラウンド・ゴルフ	2人	・ボウリング	1人	・カーリング	1人
・ゲートボール	1人	・銃剣道	1人	・モータースポーツ	1人
・ハンドボール	1人	・テコンドー	1人		

回答者が試合会場で観戦した種目は、「サッカー」(23.5%)が最も多く、次に「野球」(22.1%)、「陸上(マ

ラソン・駅伝を含む)」(9.2%)、「バスケットボール」(6.1%)、「ソフトボール」(5.9%)などとなっている。
平成15年のアンケート時と比べると、野球観戦者の割合が低下し(41.6%→22.1%)、サッカー観戦者が増加(12.2%→23.5%)しており、V・ファーレン長崎のJリーグ参加の影響が大きいものと思われる。

【問26】あなたは、長崎市でどのようなトップレベルのスポーツ大会が開催されれば、観戦に行きたいと思いますか。(複数回答可)

※H15のアンケートには、【問26】と同じ質問はありませんでした。

選 択 肢	H26	
プロ野球	244人	23.7%
サッカーJリーグ	201人	19.5%
各種国際大会	140人	13.6%
大相撲	96人	9.3%
バレーボールVリーグ	76人	7.4%
バスケットボールbjリーグ	33人	3.2%
ラグビートップリーグ	24人	2.3%
その他	50人	4.9%
スポーツ観戦に興味がない	165人	16.0%
計	1,029人	100.0%

<その他の内容> 以下種目の各種大会

・フィギアスケート	10人	・テニス	8人
・ゴルフ	6人	・体操	4人
・陸上競技	3人	・バドミントン	3人
・ソフトボール	3人	・野球	2人
・新体操	2人	・卓球	2人
・格闘技	1人	・空手	1人
・剣道	1人	・水泳	1人
・ソフトテニス	1人	・シンクロナイズドスイミング	1人
・ダンスイベント	1人	・ハンドボール	1人
・ボウリング	1人	・モータースポーツ	1人
・レスリング	1人	・特になし	2人

回答者が観戦に行きたいと思うトップレベルのスポーツ大会は、「プロ野球」(23.7%)が最も多く、次に「サッカーJリーグ」(19.5%)、「各種国際大会」(13.6%)、「大相撲」(9.3%)、「バレーボールVリーグ」(7.4%)などとなっており、その希望順位は【問25】の実際に観戦した種目とは異なることがうかがえる。また、その他の回答の中には、「フィギアスケート」や「テニス」などがある。

【問27】あなたは、運動やスポーツに関するどのような情報が欲しいと思いますか。(複数回答可)

選 択 肢	H26	
健康・体力づくりの情報	241人	18.6%
観戦するためのスポーツ行事・イベント情報	217人	16.7%
新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報	167人	12.9%
スポーツ教室の案内	139人	10.7%
高齢者スポーツに関する情報	128人	9.9%
スポーツ施設の案内(空き状況など含む)	84人	6.5%
スポーツに関する医学的・科学的な情報	83人	6.4%
クラブ同好会などの活動案内	77人	5.9%
自分が参加できる競技大会の情報	76人	5.9%
スポーツ指導者の紹介	22人	1.7%
障害者スポーツに関する情報	20人	1.5%
スポーツボランティアの募集案内	18人	1.4%
その他	25人	1.9%
計	1,297人	100.0%

<その他の内容>

・未就学児のためのスポーツ施設や教室等の情報	2人
・一般的なスポーツの開催状況	1人
・各大会結果の情報	1人
・指導員の求人に関する情報	1人
・特になし	20人

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とは選択肢が異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H15	
体力・健康づくりの方法	310人	43.6%
大会・イベントの案内	137人	19.3%
クラブ・仲間募集	92人	12.9%
空き施設情報	53人	7.5%
種目のルールや練習方法	35人	4.9%
指導者の派遣	20人	2.8%
必要なし	64人	9.0%
計	711人	100.0%

回答者が望む運動やスポーツに関する情報は、「健康・体力づくりの情報」(18.6%)が最も多く、次に「観戦するためのスポーツ行事・イベント情報」(16.7%)、「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報」(12.9%)、「スポーツ教室の案内」(10.7%)、「高齢者スポーツに関する情報」(9.9%)などとなっている。

平成15年のアンケート時も、健康・体力づくりに関する情報を望む回答者が最も多かった。

【問28】あなたは、運動やスポーツに関する情報をどこから得ていますか。(複数回答可)

選 択 肢	H26		H15	
	テレビ・ラジオ	308人	22.7%	292人
新聞・雑誌	272人	20.1%	346人	36.3%
市の広報	236人	17.4%	93人	9.8%
知人や友人から	188人	13.9%	84人	8.8%
インターネット	160人	11.8%	40人	4.2%
自治会の回覧	65人	4.8%	—	—
職場や施設の仲間	55人	4.1%	—	—
クラブや同好会	47人	3.5%	31人	3.3%
専門誌	15人	1.1%	—	—
その他	9人	0.7%	66人	6.9%
計	1,355人	100.0%	952人	100.0%

<その他の内容>

・子供が通う小学校	1人	・家族が所属するスポーツ団体等	1人
・図書館	1人	・情報を必要としていない	1人
・どこからも情報を得ていない	3人		

回答者が運動やスポーツに関する情報を得ている手段は、「テレビ・ラジオ」(22.7%)が最も多く、次に「新聞・雑誌」(20.1%)、「市の広報」(17.4%)、「知人や友人から」(13.9%)、「インターネット」(11.8%)などとなっている。

平成15年のアンケート時と比べると、「新聞・雑誌」の割合が低下し、「市の広報」、「知人や友人から」及び「インターネット」の割合が増加している。

【問29】あなたは、地域のスポーツ振興について、どのような要望がありますか。(複数回答可)

選 択 肢	H26		H15	
	年齢層にあったスポーツの開発普及	248人	22.2%	233人
スポーツ施設の整備	132人	11.8%	157人	14.4%
学校体育施設の開放・整備	121人	10.9%	141人	13.0%
公共施設での健康・体力相談	104人	9.3%	108人	9.9%
各種スポーツ行事・大会・教室の開催	97人	8.7%	98人	9.0%
地域のクラブやサークルの育成	92人	8.3%	101人	9.3%
スポーツ指導者の養成	63人	5.7%	64人	5.9%
スポーツに関する広報活動	62人	5.6%	71人	6.5%
スポーツに関する科学的研究の推進	26人	2.3%	31人	2.9%
スポーツに関する国際交流の振興	26人	2.3%	27人	2.5%
スポーツボランティアの支援	22人	2.0%	23人	2.1%
その他	10人	0.9%	8人	0.7%
力を入れてほしいものはない	112人	10.0%	25人	2.3%
計	1,115人	100.0%	1,087人	100.0%

<その他の内容>

・トップ選手等による指導、教室の開催	1人	・高校スポーツの強化	1人
・社会人向けのスポーツ施設利用の促進	1人	・わからない	1人
・障害者スポーツの普及・促進	1人	・特になし	3人

回答者が地域のスポーツ振興について持つ要望は、「年齢層にあったスポーツの開発普及」(22.2%)が最も多く、次に「スポーツ施設の整備」(11.8%)、「学校体育施設の開放・整備」(10.9%)、「公共施設での健康・体力相談」(9.3%)、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」(8.7%)などとなっており、平成15年のアンケート時と比べ大きな変化は見られない。

【問30】あなたは、スポーツの研修会・講習会が開催されるとしたら、どのような講座内容で開催してほしいですか。(複数回答可)

選 択 肢	H26		H15	
	人数	割合	人数	割合
健康づくり	362人	29.4%	292人	29.5%
体力づくり	287人	23.3%	168人	17.0%
高齢者スポーツ	154人	12.5%	162人	16.4%
各スポーツの技術・技能向上	84人	6.8%	76人	7.7%
スポーツに関する知識・考え方	83人	6.7%	83人	8.4%
こどものスポーツ	81人	6.6%	59人	6.0%
障害者スポーツ	32人	2.6%	35人	3.5%
その他	4人	0.3%	110人	11.1%
特になし	143人	11.6%	5人	0.5%
計	1,230人	100.0%	990人	100.0%

<その他の内容>

・国際スポーツ交流	1人	・メディカルサポート	1人
・各年齢層にあった講座	1人	・ダイエット	1人

回答者が望むスポーツの研修会・講習会の内容は、「健康づくり」(29.4%)が最も多く、次に「体力づくり」(23.3%)、「高齢者スポーツ」(12.5%)などとなっており、平成15年のアンケート時と比べ大きな変化は見られない。

【問31】あなたは、この1年間に何らかの運動やスポーツに関わるボランティア活動を行ったことがありますか。

選択肢	H26		H15	
	人数	割合	人数	割合
ある	41人	5.5%	56人	10.3%
ない	667人	89.8%	472人	86.8%
不明	35人	4.7%	16人	2.9%
計	743人	100.0%	544人	100.0%

1年間に何らかの運動やスポーツに関わるボランティア活動を行ったことがある回答者は、5.5%と少なく、平成15年のアンケート時(10.3%)よりも減少している。

【問32】あなたは、運動やスポーツに関わるどのようなボランティア活動を行ってみたいですか。(複数回答可)

選 択 肢	H26	
	人数	割合
大会やイベントなどにおいて、大会開催に伴う運営の手伝い	153人	19.7%
プロスポーツの試合運営の手伝い	62人	8.0%
障害者のスポーツ活動に対する支援	54人	6.9%
クラブやスポーツ団体の運営や活動の手伝い(指導・コーチ除く)	45人	5.8%
スポーツの指導・コーチ	36人	4.6%
大会やイベントなどにおいて、専門的な立場からの支援(審判員、データ処理など)	14人	1.8%
その他	27人	3.5%
行いたくない(関心がない)	387人	49.7%
計	778人	100.0%

<その他の内容>

・子どものスポーツの手伝い	1人	・わからない	1人	・できない	25人
---------------	----	--------	----	-------	-----

※今回のアンケートと平成15年のアンケート時とは選択肢が大きく異なるため、平成15年のアンケート結果を以下のとおり別に記載。

選 択 肢	H15	
地域のスポーツ行事の運営や世話	58人	48.3%
スポーツのイベント	43人	35.8%
スポーツ指導	19人	15.8%
計	120人	100.0%

回答者が行ってみたいボランティア活動は、「大会やイベントなどにおいて、大会開催に伴う運営の手伝い」(19.7%)が最も多く、次に「プロスポーツの試合運営の手伝い」(8.0%)、「障害者のスポーツ活動に対する支援」(6.9%)などとなっている。

【問33】あなたは、将来、これまでの経験を生かして、スポーツ指導の機会があれば、指導を行ってみたいと思いますか。

選 択 肢	H26		H15	
指導を行ってみたい	83人	11.2%	127人	23.3%
指導を行いたくない	581人	78.2%	383人	70.4%
不明	79人	10.6%	34人	6.3%
計	743人	100.0%	544人	100.0%

回答者のうち指導を行ってみたい人は、11.2%と低く、平成15年のアンケート時(23.3%)と比べて減少している。

【問34】あなたが、子どもの体力向上のために求めることは何ですか。(○は三つまで)
 ※H15のアンケートには、【問34】と同じ質問はありませんでした。

選 択 肢	H26	
身近で外遊びができる遊び場の充実	303人	19.4%
学校での体力づくり	236人	15.1%
スポーツ施設や設備の充実	220人	14.1%
指導者の育成	176人	11.3%
子どもに運動や遊びを教える教室やイベントの開催	166人	10.6%
学校の部活動の充実	164人	10.5%
親子で運動の楽しさを学べる教室やイベントの開催	116人	7.4%
保護者の理解を促す啓発活動	63人	4.0%
スポーツ少年団の活性化	55人	3.5%
学童保育における指導	41人	2.6%
その他	20人	1.3%
計	1,560人	100.0%

<その他の内容>

・親が必要以上に干渉しないこと	3人
・雨天時に遊べる施設をつくってほしい	1人
・大きな遊具がある施設をつくってほしい	1人
・親に負担がかからないようにしてほしい	1人
・小中学校でしたいスポーツができる環境をつくること	1人
・中学校に存在しない部活動をつくってほしい	1人
・野外(森林)での活動	1人
・わからない	1人
・特になし	10人

回答者が子どもの体力向上のために求めることは、「身近で外遊びができる遊び場の充実」(19.4%)が最も多く、次に「学校での体力づくり」(15.1%)、「スポーツ施設や設備の充実」(14.1%)、「指導者の育成」(11.3%)、「子どもに運動や遊びを教える教室やイベントの開催」(10.6%)、「学校の部活動の充実」(10.5%)などとなっている。

【問35】あなたは、子どもが運動やスポーツを行うことで、子どもに何を期待しますか。(複数回答可)
 ※H15のアンケートには、【問35】と同じ質問はありませんでした。

選 択 肢	H26	
礼儀が身につくようになる	455人	14.1%
友達がたくさんできるようになる	397人	12.3%
体を動かすことが楽しいと思えるようになる	367人	11.4%
がまん強い気持ちを育てることになる	364人	11.3%
病気にかかりにくい丈夫な体になる	308人	9.6%
物事に対する集中力が高まる	282人	8.7%
周りの人の気持ちが分かるようになる	275人	8.5%
状況に応じた考え方ができるようになる	219人	6.8%
相手の話をしっかり聞けるようになる	187人	5.8%
その運動・スポーツがうまくなる	173人	5.4%
家族の中での会話が増えることになる	139人	4.3%
進学・就職しやすくなる	42人	1.3%
その他	17人	0.5%
計	3,225人	100.0%

<その他の内容>

・体力及び運動能力の向上	2人
・親に感謝できる子供になってほしい	1人
・スポーツを通じて、他人と競い合うことの意味と、競い合うこと以外に協力し合うことのできる人間性を育てる。	1人
・年齢に応じた精神的発育	1人
・特になし	6人
・わからない	2人

子どもが運動やスポーツを行うことで、回答者が子どもに期待することは、「礼儀が身につくようになる」(14.1%)が最も多く、次に「友達がたくさんできるようになる」(12.3%)、「体を動かすことが楽しいと思えるようになる」(11.4%)、「がまん強い気持ちを育てることになる」(11.3%)などとなっている。

<その他具体的な意見>

【問21-1】あなたが、スポーツ施設に望むことは何ですか。

・専用のグラウンドが欲しい 市内にはグラウンド・ゴルフの場所がないため。
・スポーツ施設をもっと誰でも気楽に利用できる情報が欲しい 入りにくい感じがあり利用できない感がある。
・サウナ完備。
・室内テニスコートを。
・施設のP. R.
・トイレ、更衣室の充実。
・冬にもナイター使わせて欲しい。
・グラウンドの整備、土の入れ替え。
・市民プールの休みを水曜日にして欲しい。
・どんな施設があつて、どんな事が出来るのか全く知らないので教えて欲しい。
・広報活動を詳しくして欲しい。
・狭い町はグラウンド・ゴルフもできない、滑石3丁目ではグラウンド・ゴルフのクラブの話も出ましたが、グラウンドがないので話が進みません。
・ごみ焼却場の廃熱利用は現在温水プールのみであるが、スポーツジムを併設して温浴ができるようにしてほしい。プールだけだと利用者は限られる。
・町民、市民での料金差。
・利用しやすい場所。
・駐車場無料。
・グラウンドの場所が遠い。
・地域を本拠とする団体の優先的利用を認めてほしい。(予約の優先など)市と合併して、長年ホームコートとしてきた所が使用できないことがある。地域クラブの根幹に係る問題。
・陸上競技場について、もう少し夜間は明るくしてほしい。
・市民会館について。民間の施設も同様であるが室内の空気が悪い。良くするにはそれなりの経費がかかるが。
・小学校校区内に1施設程、21時くらいまで利用できる施設があると良い。
・松山ソフトボール場 グラウンド内の土が場外へ流れ出て、競技場内がフラットではなくなっているので土を入れ直してほしい。
・東長崎コミュニティー体育館について。利用料金を500円から300円～200円に下げしてほしい。利用数は増える。
・屋内テニスコートが長崎市に皆無！！国際都市では恥ずかしい。
・ウォーキングできそうな川沿いの道の近くに駐輪場等があれば嬉しい。
・野球やその他野外で行う筋肉トレーニングをする際の室内練習場(体育館とは違う)の数を増やしてほしい。
・安くて運動出来る所を増やしてほしい。
・卓球(ラージボール)とボウリングを趣味でやっているが、卓球は、近くの公民館(大浦、南)が狭くて人員も多くて入れないので、10キロ以上先の東長崎まで行っている。北大浦小跡にふれあいセンターを。ボウリングはお金がかかる。
・テニスコート 休日なかなかコートがとれない。また松山のテニスコートには壁打ちがなく試合前のアップをコート周辺でしていたら市民から苦情を言われた。国体をもし松山のコートとするなら改善が必要と思う。
・施設が中央部に集中しているようですので東西南北の地域にもお願いしたい。
・一度、公共施設を使いたいと思ったが、口座番号など登録して、銀行引き落としと聞いて面倒をやめた。
・女性でも仕事帰りに行けるようなところを設置してほしい。中心部ばかりにレッスン場(ヨガなど)偏っていて、なかなか行けない。
・子供と気軽に利用できる施設を設置してほしい。
・利用条件が厳しいと思った。

【問22】あなたが、長崎市内に新しく設置してほしいスポーツ施設は何ですか。

・他都市に比べ簡単に利用できる天然芝のグラウンドが少なすぎる。
・犬と一緒に長く歩ける散歩コースを設置してほしい。
・市民会館にあるようなスポーツ施設は駐車場が問題。駐車場代が高いため、民間の施設を利用している。温浴施設がない。ごみ焼却場の廃熱を利用した温浴設備にスポーツジムのような設備があると良い。

【問25】あなたが、試合会場で観戦した種目は何ですか。

・テレビ、新聞などでは、全種目よく見えています。
・テレビでは観戦しますが、健康上会場にいけない。
・Vファーレンを応援しています、ホーム全試合行きました。諫早がちょっと遠い。

【問26】あなたは、長崎市でどのようなトップレベルのスポーツ大会が開催されれば、観戦したいと思いますか。

・テレビ観戦でよい。
・金額次第で。
・観戦は好きだが、高齢と体が不自由なため行けない。
・外出不可（病気等の理由による）
・視覚障害者なので観戦不能。
・アメリカ大リーグ（テレビでよい）

【問27】あなたは、運動やスポーツに関するどのような情報が欲しいと思いますか。

・車椅子ダンスの指導者になりたい、教育して欲しい。
・運動施設の交通手段、駐車場に関する情報。
・選手の力量、戦績のデータ。
・小学生、中学生(中総体など)サッカー大会の結果情報が新聞で数日(4～5日後)で遅すぎます。情報を早く出してほしい。

【問29】あなたは、地域のスポーツ振興について、どのような要望がありますか。

・校区内に学校があるので、体育館の一部にジムを設置して休日のみ利用できるようにしてくれれば、新たに施設をつくる必要もないし、利用者も利用しやすい。
・障害者のことも少し考えて。自分達だけ楽しんでいると思います。
・散歩（ウォーキング）、ジョギングなどができるような広い場所（水辺の森公園等）が近くに欲しい。
・学生さんが公共の施設で部活をしているので、なかなか施設の予約が取りにくいことがある。夜、部活するのをやめてほしい。働く人は平日の夜しか運動できないので。
・子供が入学した学校にプール施設がないため、郊外のスイミングクラブに参加させました。時間的にも費用も負担が大きかった。
・高校スポーツ(特に野球)での郷土代表の全国大会での活躍。
・20～30代向けのプログラム開催。

【問30】あなたは、スポーツの研修会・講習会が開催されるとしたら、どのような講座内容で開催してほしいですか。

・ジャズ、ヒップホップなどのダンスをして、動き(振りつけ)音楽、ファッション、雰囲気などを楽しむ。

【問31】あなたは、この1年間に何らかの運動やスポーツに関わるボランティア活動を行ったことがありますか。

・マラソン大会の手伝い。
・個人的に指導、コーチならよい。
・できない（高齢、病気、障害がある、体力がない等の理由）

【問34】あなたが、子どもの体力向上のために求めることは何ですか。

・一流にならなくてもよいから、子供に体力を付けてほしい。
・外で遊べない時はお友達と遊ぶことができないから、雨が降った時に遊べる施設を作ってほしい。例えば、諫早市の子供の城みたいな施設をつくってもらえると助かります。
・親の教育が過保護すぎる。
・中学校に空手部が少ないので、空手部をつくってほしい。小江原地区は空手をしている子供が多いのでお願いしたい。
・身近に公園は十分あるが、大きな遊び場が少ない。小さなものを整備するのではなく、百花台公園や月の丘公園のような大きな遊具がある公園を作ってほしい。できれば、雨の日に遊べるのであればよい。
・スポーツバカにはしないでください。子どもには「へた」でも楽しめて体力がつくスポーツを。
・親に負担がかからないようにしてほしい。できれば全て無料で楽しく。

【資料2】

長崎市スポーツ推進計画（概要）

長崎市スポーツ推進計画（概要）

運動・スポーツを通じてすべての長崎市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を創出する



する・みる・支えるスポーツの振興



基本方針		目標	今後の取組
1	子どもの運動・スポーツ機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> すべての子どもが運動やスポーツを楽しむことができる環境の整備を図る。 今後10年以内に子どもが、全国的に体力水準が高かった昭和60年頃の水準を上回るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクル確立の促進 保護者が参加する取組の推進 幼児期から体を動かすための取組の推進 青少年育成協議会や子ども会などへの活動を支援 「あじさいスタジアム」の活用 学校間での運動部活動統合などの取組み 学校体育や運動部活動への指導者派遣 教員や運動部活動指導者などに対する研修の充実 スポーツ少年団の活動内容等の周知 子どもの運動・スポーツへの参加機会の充実
2	ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率が3人に2人(65%程度)となるようにする。 成人の週3回以上の運動・スポーツ実施率が3人に1人(30%程度)となるようにする。 成人の運動・スポーツ未実施者の数がゼロに近づけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツに関する情報の発信 運動・スポーツが苦手な人へのきょうかけづくり スポーツボランティアの機会の提供 バリアフリー化及び高齢化による施設の充実及び安全確保 スポーツ用具の定期的な点検及び適切な保管理 スポーツ施設におけるAEDの設置及び周知
3	住民が主体的に参画する地域の運動・スポーツ環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブの普及を図る。 スポーツ指導者の充実を図る。 スポーツ施設の利用促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ団体などの活動内容等の周知 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ団体などの普及促進 スポーツ推進委員の活動内容の周知及び募集 地域スポーツ指導者の活用方策の検討 大学や競技団体との連携による指導者に対する研修の充実 スポーツ推進委員が地域で行う運動やスポーツの活動を支援 長崎市公共施設案内・予約システムの周知 予約方法の工夫などにより学校やスポーツ施設の稼働率の向上 公園などにおける健康器具の利用促進 広報や場所の提供などにより地元企業や大学などの取組を支援 スポーツツーリズムによる地域の活性化
4	競技力の向上に向けた人材の養成、スポーツ環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 国際大会や全国大会などにおける入賞者数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に表彰を行うことによるアスリート及び指導者の意欲の向上 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたジュニア層の強化 スポーツ指導者及び審判員などの養成・研修を実施するための支援
5	国際大会、全国大会などの招致・開催などを通じたスポーツ振興、地域活性化、他都市との交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> 国際大会、全国大会やプロスポーツなどの招致・開催により、市民のスポーツへの関心を高め、スポーツの振興と地域の活性化に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が観戦したいと思うトップレベルのスポーツ大会の招致 長崎国体の成果や反省を生かした改善 2019年ラグビーワールドカップの合宿等の招致 2020年東京オリンピック・パラリンピックの合宿等の招致 長崎ベイサイドマラソン&ウォークなどの行事による他都市との交流推進
6	スポーツ界の好循環の創出	<ul style="list-style-type: none"> トップレベルのスポーツの伸長とスポーツの裾野の拡大を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> トップアスリートの育成・活用による人材の好循環サイクルの確立 定期的な指導を行うための活動の場の提供 トップアスリートの採用の推進

【資料3】

用 語 解 説

用語解説

ア行

【あじさいスタンダード 体力づくり編】

平成26年3月に長崎市教育委員会が発行した長崎市の子どもの体力向上のための指針。子どもの体力向上のための要素として、「①規則正しい生活をする。②自分の体力を知ること。③目標をもって運動すること。④運動の効果を確かめて、頻度や強度など適切に運動を実践すること。」を掲げている。

【インディアカ】

インディアカボールないしインディアカと呼ばれる羽根のついたシャトルコック状のボールを、ネットをはさんで対した2チームが互いに手で打ち合う団体競技。ドイツを中心にヨーロッパ諸国及び日本で競技されている。

【AED】

Automated External Defibrillatorの略で、自動体外式除細動器のこと。AEDは、心室細動の際に機器が自動的に解析を行い、必要に応じて電気的なショックを与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器。一般市民でも使用できるように設計されている。

【AEDマップ】

AEDの設置場所をインターネットで検索できる地図で、長崎市のホームページで公開。AEDを設置している施設の名称や住所などが表示される。

カ行

【観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014】

「2020年オリンピック・パラリンピック」を見据えた観光振興などを柱とする取組を、政府一丸、官民一体となって、訪日外国人旅行者数2,000万人の高みを目指すため、観光立国推進閣僚会議において取りまとめられたプログラム。

【がんばらんば体操】

本県出身の歌手さだまさしさんが、作詞作曲した歌「がんばらんば（標準語で「頑張らなければ」の意味）」を使った長崎県の県民体操。2008年3月に長崎県が発表し、初級から上級まで3つの振り付けがある。

【キャリアパス】

職に就くまでにたどることとなる経験や順序。

【グラウンド・ゴルフ】

ゴルフのようにボールをクラブで打ち、ホールポストにホールインするまでの打数を数えるスポーツ。高度な技術を必要とせず、しかも全力を出す場面と、集中力や調整力を発揮する場面がうまく組み合わされており、ルールもごく簡単なことから、初心者でもすぐに取り組める。

【コーディネーター】

いろいろな要素を統合したり調整したりして、取りまとめる人。

サ行

【スクエアステップ】

スポーツ医学や健康体力学、老年体力学を専門とする国立大学法人の教員が連携して開発した、科学的エビデンス（根拠）に基づくエクササイズ。高齢者の要介護化予防（転倒予防・認知機能向上）をはじめ、成人の生活習慣病予防、子どもの身体機能の発達、あらゆる年齢層の体力づくり・仲間づくり、アスリートの競技力向上とコンディショニングにまで適用されている。

【スポーツ少年団】

スポーツを通じて、青少年の健全育成を目的とする社会教育団体であり、（公財）日本体育協会が運営している。スポーツ少年団には、各地域で活動している野球、サッカー、バレーボール、空手道、剣道といった様々な競技の団体が登録。スポーツ活動をはじめ、地域交流活動、奉仕活動、文化活動などの様々な活動をとおして、青少年の心と身体の健全育成を図っている全国的な組織であり、平成25年度は約3万5千団体、約78万人の団員が登録し、活動を行っている。

【スポーツ推進委員】

市町村におけるスポーツの推進のため、スポーツ基本法第32条第2項に基づき、スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う者のこと。旧スポーツ振興法第19条に定める「体育指導委員」について、近年、スポーツの実技の指導や助言のみならず、スポーツ推進の事業の実施に係る連絡調整の役割が重要性を増していることから、スポーツ基本法において、「スポーツ推進委員」と改称され、連絡調整としての新たな役割が追加された。

【スポーツツーリズム】

スポーツを「する」「観る」「支える」ための旅行やこれらと周辺地観光を組み合わせた旅行のほか、旅行者がどこでもスポーツに親しめるような環境の整備や提供も含まれる。

【スポーツドクター】

スポーツ医学に関する十分な知識を有し、スポーツを行う人々の健康の保持増進や競技力向上のための支援、スポーツ傷害の予防・治療、スポーツ医学の研究・教育・普及活動などを行う医師のこと。スポーツ団体などによる資格認定制度として、公益財団法人日本体育協会公認スポーツドクター、社団法人日本医師会認定健康スポーツ医、公益社団法人日本整形外科学会認定スポーツ医、公益財団法人日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ医などがある。

【スポーツ・レクリエーション活動】

スポーツとして行われるレクリエーション活動のこと。心身の健全な発達、生きがいのある豊かな生活の実現などのために行われる活動としてスポーツ基本法第24条において新たに位置づけられた。

【青少年育成協議会】

青少年の健やかな成長のために地域社会として取り組むことを目的として、中学校区または小学校区ごとに組織されている。地域の方々が中心となり、季節の行事や体験活動、スポーツやレクリエーションなどイベントを実施したり、あいさつ運動や交通安全指導などの非行防止、事故防止の活動など、子どもたちの健全育成のために日々活動を行っている。

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

小中学生の体力の状況を把握・分析するために文部科学省が実施する調査。全国の小学校5年生と中学校2年生が対象。握力・上体起こしなど8種目の実技調査、運動習慣・生活習慣・食習慣などに関する質問紙調査が行われ、学校における体育・健康教育の改善に役立て、子供の体力低下に歯止めをかけるのがねらい。

（参考）昭和 60 年度と平成 25 年度の調査結果の比較

項目	学年	S60 年度全国	H25 年度全国	H25 年度長崎県	H25 年度長崎市	備考
50m 走 (秒)	小5 男子	9.05	9.23	9.34	9.27	
	小5 女子	9.34	9.58	9.63	9.59	
	中2 男子	7.90	7.89	8.09	8.09	
	中2 女子	8.57	8.73	8.87	8.85	
反復横とび (回)	小5 男子	39.46	43.11	42.49	42.10	
	小5 女子	37.94	39.74	40.22	39.81	
	中2 男子	—	—	—	—	中学校 S60(幅 120 cm) H25(幅 100 cm)のため比較できない。
	中2 女子	—	—	—	—	
ボール投げ (m)	小5 男子	29.94	24.86	24.27	24.16	小学校ソフトボール投げ
	小5 女子	17.60	14.58	14.46	14.17	
	中2 男子	22.10	21.49	20.72	20.47	中学校ハンドボール投げ
	中2 女子	15.36	13.56	13.15	12.85	
握力 (kg)	小5 男子	18.35	16.92	16.26	16.13	
	小5 女子	16.93	16.28	15.79	15.69	
	中2 男子	31.16	29.33	29.33	29.08	
	中2 女子	25.56	24.42	23.61	23.64	
持久走 (秒)	小5 男子	—	—	—	—	小学校なし
	小5 女子	—	—	—	—	
	中2 男子	366.40	381.19	381.46	375.55	男子 1500m 走
	中2 女子	267.11	284.33	281.81	280.36	女子 1000 m 走

【総合型地域スポーツクラブ】

地域住民が会費などを自主財源として主体的に運営するスポーツクラブで、複数の種目が用意されており、地域の誰もが年齢、趣味・関心、技術・技能レベルなどに応じて参加できるもの。

夕行

【ターゲットバードゴルフ】

ゴルフボールにバドミントンの羽をつけたボールをゴルフクラブで打ち、打数の少なさを競うゴルフがミニ化されたスポーツ。

ナ行

【長崎市救急サポートステーション】

事業所内やその付近で突然けが人や病人が発生した場合に、119番通報や救急隊到着までの間の応急手当、安全確保を実施するなどの協力ができる従業者等を有する事業所のこと。救急サポートステーションには、標章が掲示されている。

【長崎市公共施設案内・予約システム】

パソコンや携帯電話などによるインターネット接続や電話の自動音声応答により、利用できる施設の案内情報、施設の予約状況の確認や利用の申し込みを行うことができるシステム。

【長崎市民応援DAY】

V・ファーレン長崎のホームゲームに、長崎市内在住の小・中学生を招待する企画。

ハ行

【PDCA】

Plan / Do / Check / Actionの略で、計画(Plan)→実行(Do)→検証(Check)→改善(Action)の流れを次の計画に活かしていくプロセスのこと。体育の授業において、運動が苦手な子どもにも、得意な子どもにも意図的・計画的に授業を行うため、このプロセスを活用して、授業内容の改善、子ども達への支援を行っている。

【ペタンク】

テラン(コート)上に描いたサークルを基点として木製のビュット(目標球)に金属製のボール(ボール)を投げ合って、相手より近づけることで得点を競うフランス発祥の球技。

ヤ行

【幼児期における運動指針】

文部科学省が平成19年度から21年度にかけて、幼児期に獲得しておくことが望ましい基本的な動き、生活習慣及び運動習慣を身に付けるための効果的な取組などについて行った実践研究の成果を踏まえ、学識経験者などにより構成された幼児期運動指針策定委員会において、平成24年3月に取りまとめた幼児期における運動の在り方についての指針。

ラ行

【ロコモ予備軍】

「家の中でつまずいたり滑ったりする」などのロコモチェック項目にひとつでも当てはまる人で、ロコモティブシンドローム(運動器の衰え・障害によって、要介護になるリスクが高まる状態。)になる可能性がある人。

【資料4】

長崎市スポーツ推進計画策定までの経過

長崎市スポーツ推進計画策定までの経過

時 期	内 容
平成25年 8 月21日	平成25年度第 1 回長崎市スポーツ推進審議会 (市民アンケート案について審議)
	↓
平成26年 1 月	長崎市民の運動・スポーツの実態に関するアンケートの実施
	↓
平成26年 3 月25日	平成25年度第 2 回長崎市スポーツ推進審議会 (市民アンケートの集計結果について審議)
	↓
	関係各課との調整、長崎市スポーツ推進計画（案）の作成
	↓
平成26年 8 月27日	長崎市スポーツ推進審議会へ諮問
	↓
平成26年 8 月29日	平成26年度第 1 回長崎市スポーツ推進審議会 (長崎市スポーツ推進計画（案）について審議)
	↓
	競技団体等との調整
	↓
平成26年10月3日	平成26年度第 2 回長崎市スポーツ推進審議会 (長崎市スポーツ推進計画（案）について審議)
平成26年12月17日	平成26年度第 3 回長崎市スポーツ推進審議会 (長崎市スポーツ推進計画（案）について審議)
	↓
平成26年12月24日 ～平成27年 1 月23日	パブリック・コメントの実施 (意見なし)
	↓
平成27年 2 月 6 日	長崎市スポーツ推進審議会から答申
	↓
平成27年 5 月	長崎市スポーツ推進計画策定

【資料5】

長崎市スポーツ推進審議会委員

長崎市スポーツ推進審議会委員

(順不動、敬称略)

会長	中 島 章一郎	公益財団法人長崎市体育協会会長
委員	石 井 通 義	公益財団法人長崎市体育協会副会長
委員	白 石 邦 俊	長崎県高等学校体育連盟理事長
委員	藤 田 克 祐	長崎市中学校体育連盟会長
委員	小 林 和 正	長崎市小学校体育大会副部長（平成26年7月31日まで）
委員	麻 生 毅	長崎市小学校体育大会副部長（平成26年8月1日から）
委員	中 野 典 子	長崎市スポーツ推進委員協議会女性部長
委員	川 本 一 成	長崎市スポーツ少年団指導者協議会副会長
委員	神 近 眞智子	長崎商工会議所女性会副会長
委員	阿 野 友 範	一般社団法人長崎青年会議所副理事長（平成26年7月31日まで）
委員	峰 栄 樹	一般社団法人長崎青年会議所総務委員会委員（平成26年8月1日から）
委員	久 保 里 司	長崎県障害者バドミントン協会会長
委員	山 口 多恵子	日本女子テニス連盟長崎県支部支部長（平成26年7月31日まで）
委員	池 上 洋 子	長崎市グラウンド・ゴルフ協会女性部長（平成26年8月1日から）
委員	小 柳 奈 々	長崎県バスケットボール協会常任理事家庭婦人担当理事
委員	中 路 エミ子	長崎県水泳連盟障害者委員
委員	中垣内 真 樹	長崎大学医学部保健学科 准教授（平成26年7月31日まで）
委員	高 橋 浩 二	長崎大学教育学部 准教授（平成26年8月1日から）
委員	満 永 ひとみ	長崎北児童クラブ指導者
委員	立 山 照 寛	公募委員（平成26年7月31日まで）
委員	大 岩 道 子	公募委員（平成26年8月1日から）

長崎市スポーツ推進計画

